

第 56 回 河川レンジャー制度運営委員会

日 時：平成 31 年 3 月 15 日（金）13:30～17:00

場 所：ウォーターステーション琵琶 1 階会議室

議 事 次 第

1. 開会

2. 委員紹介

3. 報告

- (1) 第 55 回河川レンジャー制度運営委員会の議事録について (資料-1・2)
- (2) 琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所意見交換会について (資料-3)
- (3) 河川レンジャー年間活動報告 (資料-4)

4. 審議

- (1) 平成 31 年度 河川レンジャー活動計画【暫定版】の承認について (資料-5)
- (2) 今後の河川レンジャー活動の視点（河川管理者(案)）について (資料-3・6)

5. その他

- (1) 河川レンジャーレポート Vol.36 発行 (参考資料-1)
- (2) 傍聴者からの意見

6. 閉会

7. 非公開審議（河川レンジャー継続審査） *一般傍聴者の方は退出願います

【配付資料】

- 資料-1 第 55 回河川レンジャー制度運営委員会 議事録
- 資料-2 第 55 回河川レンジャー制度運営委員会 議事要旨
- 資料-3 第 2 回 河川レンジャー・琵琶湖河川事務所意見交換会開催報告
- 資料-4 琵琶湖河川レンジャー年間活動報告書
- 資料-5 今後の河川レンジャー活動の視点（河川管理者(案)）
- 資料-6 平成 31 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動計画（案）【暫定版】

参考資料-1 河川レンジャーレポート Vol.36

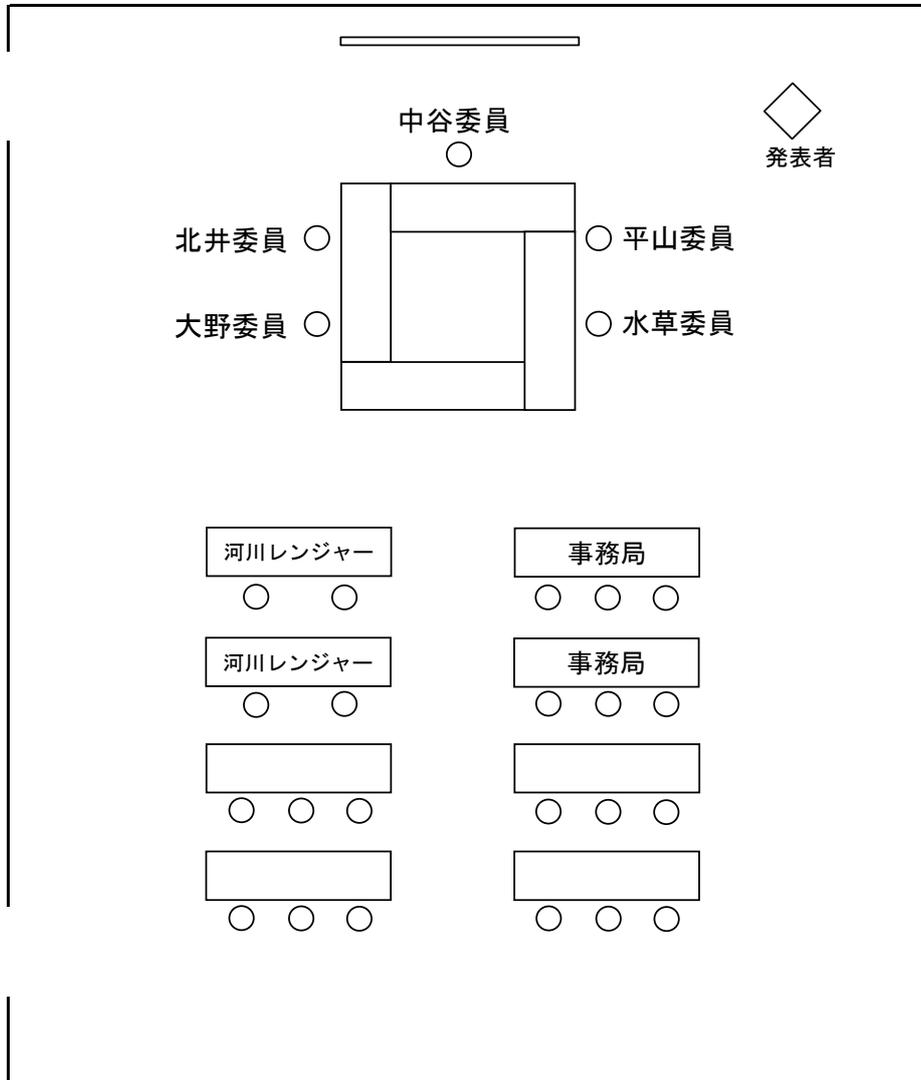
参考資料-2 平成 30 年度 年間スケジュール

第56回 河川レンジャー制度運営委員会 委員名簿

区分	分類	氏名	所属等	備考
河川レンジャー 制度運営委員会	学識経験者	おおの ともひこ 大野 智彦	金沢大学 地域創造学類/人間社会環境研究科	
		なかたに けいごう 中谷 恵剛	NPO法人瀬田川リバブレ隊	
		ひらやま なおこ 平山 奈央子	滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科	
	住民	きたい かおり 北井 香	淡海の川づくりフォーラム実行委員長	
	行政関係者 (河川管理者)	いぶき のぶと 伊吹 信人	滋賀県土木交通部 流域政策室 河川・港湾室 室長	ご欠席
		みずくさ こういち 水草 浩一	国土交通省 琵琶湖河川事務所 所長	

(各50音順、敬称略)

配席図



(敬称略)

河川レンジャー制度運営委員会 事務局名簿

区分	氏名	所属等	備考
琵琶湖河川事務所	おだに としふみ 小谷 敏文	副所長	
	おくの じゅんいち 奥野 淳一	保全対策官	
	ふじい まさあき 藤井 正明	管理課 調整係長	
流域連携支援室	まつおか とおる 松岡 徹	河川レンジャーマネージャー	
業務受託者	なかにし ふみなお 中西 史尚	河川財団 近畿事務所	
	いまい のりお 今井 範雄	河川財団 近畿事務所	
	おの まさお 小野 正雄	河川財団 近畿事務所	

■第55回 河川レンジャー制度運営委員会 (2018.12.27) 議事録

◆出席：中谷委員、北井委員、大野委員、水草委員

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
1. 開会	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は、河川レンジャー制度運営委員会にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。定刻になりましたので、これより第55回河川レンジャー制度運営委員会を開催いたします。 ・私は、委員会事務局の中西と申します。よろしく願いいたします。 ・まず初めに、本会の開催に当たり、本来であれば年度途中の10月あるいは11月ごろに開催すべきところですが、レンジャーと事務所との意見交換の内容を詰めたり、河川事務所の会計検査が11月に入ってきたり、また事務局とのやりとりにふぐあいが生じた期間があり、年末に開催することになってしまいました。大変申しわけございませんでした。 ・では、改めまして本日の委員会は、出席委員が4名となっております。委員総数が6名でございますので、規約第8条2項に定めておりますように、過半数以上ということで成立しておりますことをご報告申し上げます。 ・続きまして、お手元の配付資料を確認いたします。まず、一枚物の議事次第でございます。その下に委員名簿がございます。本資料ですけれども、資料1が前回の議事録、資料2が意見交換会の開催報告、資料3が勉強会の開催報告、資料4が河川レンジャーの年間活動計画、資料5が河川レンジャーの中間活動報告書、資料6が今後のスケジュール。それから、参考資料としまして河川レンジャーレポートの35号と中間報告で用います各レンジャーさんからの参考資料がそれぞれ3種類ございます。以上が配付資料です。不足、不備等ございましたらご連絡ください。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 委員紹介	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。委員名簿をご確認いただきたいと思います。 ・まず本日出席の委員は、大野委員、中谷委員、北井委員、水草委員でございます。平山委員におかれましては、学内の業務の関係でご欠席です。伊吹委員も、滋賀県の公務と重なっており、ご欠席とのことでございます。裏面には事務局の面々を載せておりますので、ご確認ください。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 河川レンジャー任命式	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・続きまして、議事次第の3番目の項目になります。ここまでは事務局で進行させていただきます。 ・「河川レンジャー任命式」ということで任命式を行いたいと思います。 ・前回の委員会のときに近藤さんが合格ということで、新たに6月7日に採用されました。本来であればすぐに任命式を行うべきですが、今回の運営委員会のタイミングで皆様の前で任命させていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願ひいたします。 ・では、委員長から任命書の授与というようなセレモニーをさせていただきたいと思いますので、近藤レンジャー、前のほうにお願いします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・任命書 近藤啓太様 琵琶湖河川レンジャーに任命します 期間 平成30年7月1日から平成32年3月31日まで 平成30年12月27日 河川レンジャー制度運営委員会 委員長 中谷恵剛 ・よろしくお願ひします。
	R近藤	<ul style="list-style-type: none"> ・よろしくお願ひします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長、一言お願ひします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・随分時間がたってから任命書をお渡しして失礼なのですが、近藤さんは陸上だけでなく水上での活動も可能であると。瀬田川を眺め、大きく見ると、きれいな風景ですが、部分的に小さく見ると、ごみがたくさんあります。そういう中で沿川の住民の皆さんとよりよい川づくりのためにどういう連携ができていくか、その辺を踏まえて、自分のスタイルの特徴を生かした活動を大いに進めていただければと思います。よろしくお願ひします。
	R近藤	<ul style="list-style-type: none"> ・よろしくお願ひします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・この後、近藤レンジャーには計画のほうもご説明いただきますけれども、何か一言ございませんか。
	R近藤	<ul style="list-style-type: none"> ・任命式の前から活動するという特殊な形になりましたが、ことしの7月から活動させていただいております。普通ではなかなかできない水陸両方からの視点を持っていると思うので、それを生かして次の任期の3月31日まで精いっぱい活動していきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. 報告 (1) 第54回河川レンジャー制度運営委員会の議事録について	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・では、これから議事を進めてまいります。これ以降の議事進行は、中谷委員長にお願いしたく存じます。委員長、どうぞよろしくお願ひいたします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、進めさせていただきます。 ・委員の皆様、ご出席いただきまして、ありがとうございます。年末になりましたけれども、議事がうまく進みますようにご協力をお願いいたします。 ・それでは、次第にありますとおり、まず4番目の報告事項。そのうちの1つ目、「第54回河川レンジャー制度運営委員会の議事録について」ということで事務局から説明をお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、資料1の「第54回河川レンジャー制度運営委員会議事録」をごらんください。 ・委員会終了後、議事録を各委員の方々にお送りさせていただきましたが、現在までで疑問点などございましたらご発言、ご質問いただきたいと思いますっております。 ・内容につきましては、年度当初の委員会であったということ、また今回事務局が変わったということもございまして事務局の紹介から始まりまして、委員長・副委員長の決定では前年に引き続きまして中谷委員長、北井副委員長という体制でいくということが決まりました。それから、各レンジャーさんの活動計画につきましては、幾つか助言がございましたけれども、提出いただいた計画に沿って進めるということで承認いただいております。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどもありましたが、委員会後に各委員の皆様には確認の手続がされておりますし、お目通しいただいて特に何かありましたらお伺いしますが、よろしいですか。 ・報告は以上のとおりとさせていただきます、次に進めます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. 報告 (2) 琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所意見交換会について	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・2点目のレンジャーと事務所との意見交換会について報告をお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回の河川レンジャー・河川事務所の意見交換会について、資料-2とA3縦長の資料-2(別紙)を用いまして報告させていただきます。 ・まず、開催しましたのは10月22日です。 ・趣旨としましては、河川レンジャーと琵琶湖河川事務所の職員が瀬田川・野洲川・琵琶湖にかかわる者としてそれぞれの立場から語り合い、行政・

	<p>河川レンジャー・住民、それぞれの役割を認識・共有したり、将来を描いたりする機会とすると。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマとしましては、昨年度から議題に上がっている河川事務所の課題について具体的に挙げて議論し、河川レンジャーが検討できることは何か、また河川事務所からのアイデアにはどのようなものがあるかを共有していくことに。特に「河川事務所の課題とは地域からのニーズである」ということをご説明して、意見交換をさせていただきました。 ・出席者につきましては、根木山レンジャー、北村レンジャー、水上レンジャーの3名、河川事務所からは管理課の奥野さん、藤井さんの2名でございました。 ・内容としましては、冒頭に活動の近況報告、それからテーマについての意見交換をさせていただきました。 ・資料の2ページ目は、各レンジャーから最近の活動事例の紹介をまとめて書いております。ここにつきましては後ほどの中間報告で報告させていただきますので、説明は割愛させていただきます。 ・テーマの2つ目であります「河川管理者が期待する河川レンジャー活動のリスト事例」の意見交換については、A3縦の資料に整理しております。こちらを見ていただきますと、大きく3列設けておりますが、一番左側が「地域から琵琶湖河川事務所に寄せられるニーズや想い」ということで、昨年度から話題に出ております「河川管理者が期待すること」と同じものと見ていただけたらと思います。地域からのニーズがあるが河川事務所がなかなか手をつけられない項目であり、レンジャーの活動に期待したい項目になっております。 ・例えば、樹木を伐採してほしい、草を刈ってほしい、土砂を取り除いてほしい、水草を刈ってほしい、外来種を駆除してほしい、ごみを取ってほしいというニーズ。また、次ページに行きますと、河川の活用をうまく考えたい、琵琶湖の水位の問題がわからない、あるいは低くしてほしい、高くしてほしいということ、それから水防災のことを教えてほしいとか、そういった要望を事務所のほうで把握しておられます。 ・これに関しまして、河川レンジャーの「地域とつなぐ」という活動の中でどういったことができるだろうなどを意見交換しまして、そこで出てきたものを真ん中の列に書いております。こちらは、「私ならできること」というような意味ではなく、「河川レンジャーがすればいいのではないか」というような一般的な意見も含めて出させていただきました。また、事務局も一緒になってアイデア出しをしましたので、その中には支援室の意見、それから河川事務所からの意見もまぜて書いております。 ・真ん中の列で大きな丸と小さなぽつに分けて書いておりますのは、大きな丸が事務局として分けたカテゴリー、その中の小さなぽつが皆さんでアイデア出しをしていただいた項目でございます。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、大きな丸のくくりでは、河川管理者と地域との間を取り持つと いいますか、つなぐということでは、一つは河川管理者の考え方を地域 に伝えるというカテゴリーがあるのではないかと。これに関して、例え ば樹木の伐採ですと、公募の情報を伝えて応募する人をふやしていくキ ャンペーンをすとか、樹木伐採が必要な方へ情報を流すというような ことがあるのではないかとというアイデアがありました。 ・また、今度は地域から河川事務所へ意見を伝えるという項目としまして は、高水敷・樹木を必要としている方を探して河川管理者とつなぐとい う活動も考えられるのではないかとというアイデアが出てきました。 ・中には、カテゴリーは分けたものの、それに対するご意見やアイデアが なかったものもございます。 ・また、ご自身がこれまで取り組んでこられた活動、現在取り組んでおら れる活動に当てはまるものもありました。例えば根木山レンジャーです と、冬の河川敷で樹木伐採の体験をすとか、それを使ってまな板づく りをすると人が集まり継続性も出てくるとか、そういった具体的な、実 際的なアイデアもございました。 ・このように、各地域のニーズに対してできるアイデアがそれぞれの項目 で出てきております。これにつきましては今後の活動の活性化に向けて 少し議論を深めていかないといけないかなとは思っておりますけれど も、こういった意見出し、アイデア出しをしております。 ・全ての項目を説明すると、かなり時間を要しますので、実施した状況 をご確認の上、ご意見がございましたらいただきたいと思っております。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございました。 ・レンジャーの活動と事務所の苦勞しているところ、思いのあるところ、 地域の住民のニーズにはこういうのがあるよというようなところをうま くすり合わせをしていくというか、そういういい機会を持ってもらって いると思います。 ・一番上の「樹木を伐採してほしい」というところで気になる表現があり ますが、真ん中の列の「○河川事務所の考え方を伝える」「・公募伐採に 応募する人を増やすキャンペーン」の次のぼつ、「・樹木伐採木が必要な 人へ公募伐採の情報を流す」。趣旨はわかりますが、要は薪が欲しいから切 るので行政側としては「邪魔になる木は切りたい」ということですが、 欲しがっている人の気持ちを理解した表現にしないとうまくつながら ないのではと思います。次の丸のところの「・高水敷・樹木を必要とし ている方を探し」というのもわからないです。レンジャーには地域の住民 と直接かかわっているところを期待しているので、片や行政目線は当 たり前ですが、住民側にとって草を刈ってほしいというのも景観や農地の

		<p>害虫という面があり、「活動しましょう」というときに双方の思いをわかっているほうが。意味としてはわかると思いますが、こういう表現でくくられてしまうとどうかなという気がしたので発言をしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ほかの委員の皆さんはどうでしょうか。こういう意見交換の取り組みをしてもらっていますが。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> 今のご意見を踏まえると、木が欲しい人、草が欲しい人を探し出して「〇〇地区の〇〇さんが草を欲しがってますよ。それは何トンですよ」というのは「つなぐ情報」ですけれども、それが一方的だと言うのであれば、「じゃ、逆方向とは一体何ですか」と。それを私なりに解釈すると、例えば「〇〇さんは〇〇の作業するために直径何センチ以下の木が欲しいとか何センチ以上の木が欲しい」「こういう草が入っていたら困るとか入っているとありがたい」みたいな情報を河川管理者に伝えてもらって、「そういう木はこの辺にたくさん生えています」とか「この辺の草は〇〇がいっぱい入っているから、それを牛に食べさせたら死んじゃいますね」とか、そういった河川管理者しか持っていない情報の突き合わせという意味で「使えるという方向性の情報の吸い上げでつなぐ」というのもあるかなと思いました。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> はい、ありがとうございます。 昨今、薪ストーブがはやっているので、つくっているところに「こういう仕組みがあります」と。ダムでは流木について積極的に発信しているので、そういうこともありかなと。樹木に関してはです。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> あと、木や草にしろ、「数がいっぱいはければはけるだけ河川管理者はありがたいでしょう？」という立場で言えば、まな板もいいですけども、まな板は数ははけるではない。イメージという意味では必要ですが、質と物量というところの質の話だと思います。一方で「私は物量勝負でいくわ」ということであれば、例えばモニュメントよりは薪ストーブのほうがたくさん、薪ストーブよりキノコ農家のほうがたくさん使ってくれる、キノコ農家よりは堆肥屋さんや、もしくは発電をやっている人、「数がたくさんはけるところの情報を持ってきました」というのもありがたいです。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> そうですね。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> 今のところに関連すると思うのですが、「望まれる姿」のところに書いてある丸というのも議論の中で出てきた意見をまとめられたものですか。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> その結果どういうところにつながるのか、例えばこういう効果があるというのは、あらかじめ事務局で書かせていただいて。ただ、ここについては、このときは言及がなかったので、まだ議論はしていません。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> ここが一番大事になってくるところだと思います。でも、これを見ると、重要だけれど、非常に具体的で細かいという感じがします。今、

		<p>議論の中で出てきた、例えば地域でうまく木が回っていくようなものが多分ここに望まれる姿として書かれていくようなビジョンだと思います。しかし、その大きなビジョンが「河川事務所の日々の管理についてよく解った」というふうになってしまうと、「では、それは河川レンジャーじゃないとできないことなのか」という感じがします。今、事務局で書かれたということをお聞きして理解はできましたが、これがひとり歩きして、これが目標という風になってしまうと、ぐあいが悪いと思います。河川レンジャーでないといけないことや、もっといろんな人が賛同できる具体的なビジョンというのにはあり得ると思います。そこをバシッと決めることは難しいと思いますが、これがひとり歩きするとよくないなど思いましたので発言させていただきました。</p>
水草		<ul style="list-style-type: none"> ・今の発言を受けると、何となく一番右の「望まれる姿」のところは、2段書きしてほしいというわけじゃないのですが、これは短期的なものですよね。直接的というか。だから、真ん中の列のような活動ですること得られるものと、この右の列をすることで得られる解決や最終目標は一体何かという2つがあると、わかりやすいのかもしれないです。「愛着がもてた」はいいのだけれど、「愛着を持っていて何がいいの？もしくはどうよくなるの？」という感じのところ为爱着を持つことで、例えば「河川の事業に住民参画がふえて、今後の河川事業の円滑な進行につながる」ということで河川管理者側からのスタンスがあるし、住民側からすれば「役所からの押しつけの河川整備じゃなくて、住民の意見を通す、住民の意見を通じやすい場を得ることができる」という表現になって、そこが最終になる。だから、それをいきなり目指すのではなく、最終的にそこに行くような方向性で活動の方向を見ていくということに使えるのかも。そういう表現にしたほうがいいかもしれないなど。
大野		<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。その意味で、ここについても河川管理者の方とレンジャーの方でいろいろ議論を深めていただくことが大事かなと思います。
水草		<ul style="list-style-type: none"> ・そこはさっき委員長がおっしゃった住民目線と河川管理者目線があって、あともう一つ、何とか目線というのがあるのかもしれないです。それで分けてもいいかもしれないし、一つの物事と複数の見方というやり方もあるかもしれないし。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。分けて書くのもあるけれども、PDCAサイクルのように「こうすることによってこういう方面が」というような。 ・そうしましたら、意見交換会の結果としてまとめていただいたので、これはこれとして。きょうは後で中間報告もありますし、文章で書くのは難しいと思うので、レンジャーの今後の活動も今議論しているようなことを酌み取っていただくようお願いしたいと思います。 ・このパートはこれでよろしいですか。何か意見がありましたら、また後

		で関係するところが出てきますので、そこでお伺いすることとしましょう。
--	--	------------------------------------

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. 報告 (3) 琵琶湖河川レンジャー勉強会「第1回水防災研修」開催報告	中谷 △中西	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、報告事項の3番目のレンジャーさんの勉強会、水防災研修についての報告をお願いします。 ・ 続きまして、資料-3になります。 ・ 支援室としましては、河川レンジャーに活動の参考になるような知識やノウハウを持っていただきたいということで適宜勉強会を開いております。活動要領の中では河川レンジャーからの要望も踏まえて開いていくというようなこともございますが、今回は支援室のほうで「水防災」というテーマを考えまして、意見交換会なり前回の運営委員会に諮った上で勉強会を開かせていただきました。 ・ 目的としましては、今申しましたように、水防災の知識をレンジャーに持っていただきたいということですが、昨今、計画を上回るような出水がたびたび全国で起こっている中、避難で逃げおくれる方がいらっしゃるという社会情勢もございます。また、今、国でも対策等が進められようとしておりますので、そういった予備知識を持っていただくこと。実際、ソフト対策の面では防災マップを市民の方につくっていただくといった解決策を考えられているということもあって、先行事例等を紹介する機会をつくりたいということで開催させていただきました。 ・ 開催しましたのは一月ほど前の11月22日でございます、このウォーターステーションで行っております。 ・ 研修の内容につきましては、「2. 概要」に書いてございますが、「瀬田川・宇治川の堰・ダム操作について」ということで、琵琶湖、瀬田川の特徴としましてどういった治水対策、堰の対策をしているのかを知っていただくという機会を設けました。「水防に関する基礎知識を学ぼう」というテーマに関しましては、今、国が実施しようとしていることの基礎知識を学ぼうということで河川事務所の調査課長に来ていただきました。また、「ハザードマップを活用しよう」ということでは、実際地元の市町村ではどういった活動をされているかについて守山市の方からお話しいただきました。それから、「マイ防災マップ作成について」では取り組み事例ということで下流の淀川の河川レンジャーの山口さんに事例を紹介していただき、その後、意見交換の時間をとらせていただきました。 ・ この勉強会には、河川レンジャーの方はもちろんですが、よくこの施設を利用されている団体の方4名、河川事務所の職員の方、守山市

		<p>の方等々、24名に出席いただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果も書いてございますけれども、淀川での事例が勉強になったとか、地域に密着した防災マップづくりが大切になると思ったとか、こういった過程で住民意識が高まる効果が多いのではないかとというような感想をいただきました。 ・全体としまして、裏面の「4. まとめ」にも書いてございますが、こういった知識を知っていただいたということはよかったかなと思っております。また、最近「水防災意識社会再構築ビジョン」という言葉を行政では広めているということも知っていただきましたし、マイ防災マップづくりに関しての理解もある程度できたとか、こういったことを多くの人に知ってほしいという感想もいただいております、できればもう少し実践的に深めるために第2回の勉強会を開きたいと考えております。 ・以上報告でございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。ご質問等ございませんでしょうか。ないようでしたら、次に進めさせていただいてよろしいですかね。 ・それでは、報告事項は以上のとおりです。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. 審議 (1) 平成30年度河川レンジャー活動計画(案)の承認について	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・次は審議事項ですが、まずレンジャー活動計画について審議をしたいと思っておりますので、事務局から説明をお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・この議事では、本日任命を受けられた近藤レンジャーにご説明いただきます。 ・任命後、年間活動計画を支援室とも相談しながらつくっていただいております。実際この3カ月間の活動も踏まえて紹介いただけるようですので、それもあわせて説明いただきたいと思いますと思っております。 ・時間的には、10分をめぐりに活動計画や概要の紹介をしていただいて、その後、質問等をしていきたいと思っております。 ・では、近藤さん、よろしくお願いします。
	R近藤	<ul style="list-style-type: none"> ・こんにちは、近藤です。本日は、河川レンジャー年間活動計画の案についてのご説明と、これまでの3カ月間で実施した活動のまとめ、それを踏まえて来年以降どういう活動をしていくかという点についてのまとめを準備しておりますので、説明させていただきます。 ・まず年間活動計画ですが、テーマとしては「瀬田川流域の水草環境改善のための河川利用者間の交流の場の構築」です。 ・背景として、私は今、京都大学のボート部で活動していますが、活動していると、ボート部だけでなく、カヌー部や釣りをしている方たちが水草の存在が邪魔だという感情を抱いている、水草で活動が損なわれてい

	<p>ることが多く、また景観も損なわれているので、それぞれの団体が一丸となって水草刈りができるような場を構築するかけ橋として活動していきたいというものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンとして、先ほども述べましたが、瀬田川流域の利用者、利用団体が相互的に交流して一緒に活動していく関係性を構築することが第一で、瀬田川利用者が自身にとってだけでなく、他者、他団体にとって居心地のいい瀬田川の姿をそれぞれ認識していくというところです。 ・そのためには、ミッションですけれども、今、京大ボート部に所属していますので、瀬田川を利用している他大学、同志社さんや立命館さんのボート部と交流を図って、その後、同じ学生団体であるカヌー部などと連携をとってという形で、まず身近なところから交流の輪を広げていって、小さい交流の場をつくって、より大きいもの、より大きいものという形で場の構築につなげていきたいと思っております。 ・そうした場をつくった上で、瀬田川で活動している人同士、活動の種類が近い人たちをまとめて、それまでの「ただとにかく人を集めただけの場の構築」から「似たようなことを求めている人たちの場の構築」という形に広げて、最後にそうした団体を幾つかまとめて、言い方としては、一番大きい交流の場をつくった上でそれを活動につなげていければなど思っております。 ・今年度の成果目標としては、瀬田川利用団体、利用者、そして意見の把握。次に、河川レンジャーという存在を瀬田川の各団体にしっかり認識していただく。最後に、先ほどミッションのところでも述べましたが、意見交換会の設定となります。 ・具体的な内容としては、瀬田川流域に拠点を構える大学ボート部へのヒアリング、交流会の企画などを通し、その後、その活動のノウハウをカヌー部や地域住民の方々といったように場を広げていこうと考えております。 ・次に、2番の河川レンジャーという存在の認識については、「河川レンジャーです」という形でヒアリングに行く。これは「京大ボート部の近藤です」ではなくて「河川レンジャーの近藤啓太です」というふうに紹介していくことで他団体に「河川レンジャーという人がいる」ということをしっかり、特に大学生には河川レンジャーを知らない方も多いため、河川レンジャーの存在を認識していただいてこれからの活動が円滑に進むような下地をつくれればと思っております。 ・最後に、意見交換会の設定としては、上記1、2の活動においてリストをつくっていった、それで意見交換会を開くと。それと並行して、ここには名前がないのですが、今、京都大学で藻類の研究をされている宮下英明教授とコンタクトをとっております、このままいけば恐らく協力していただければと思われまますので、そうした宮下教授との交流会なども
--	--

	<p>開いていこうかなと考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のページに行きまして、対象は、簡潔ですが、瀬田川利用者及び管理者などです。 ・工程計画としては下の図のとおりですので、後々各自ご確認いただければと思います。 ・3ページの「今後の活動を見据えてのこれまでの活動のまとめ」に入っていきます。これまで私が行った活動は大きく3つに分類できまして、1つ目に「他大学ボート部へのヒアリング」、2つ目は「藻刈りについてのヒアリング」、3つ目が「他団体、あるいは個人へのヒアリング」ということで、一つずつ簡潔に説明させていただきます。 ・まず「他大学ボート部へのヒアリング」は、年間活動計画にもありましたように、瀬田川流域に拠点を構えている大学のボート部にヒアリングを行っていく予定でした。そうした大学にヒアリングができなかったわけではないのですが、ことしの活動としては他水域の大学、例えば埼玉の戸田漕艇場、大阪の神崎川を利用されている方へのヒアリングというふうに本来の趣旨とずれたものになってしまいました。この点については確かに反省すべきで、来年改善していくところですが、例えばよその水域では各大学のボート部がどのように連携をとっているかであったり、どのようにして大学ボート部員が藻刈りをしているのかという知見が得られたので、本来の趣旨から外れた活動ではありましたが、無意味ではなかったと思っております。ただ、来年の活動をしていく上で、ことし余り達成できなかった「活動趣旨を把握しその本流から脱線しないように」というところには気をつけながら、そこにとらわれ過ぎずに、気になったところには手を伸ばしていくぐらいのほうが今まで自分が思っていなかった気づきや方法論を身につけられるのではないかなと今回気づきましたので、来年の活動も柔軟性を持って行っていきたいと考えております。 ・2番目の「藻刈りについてのヒアリング」ですが、活動の場をつくる目的がみんなで藻刈りを実施していくということですので、こちらについては、日本ボート協会や東京大学の漕艇部など、埼玉県戸田漕艇場で藻刈りをしていた団体にヒアリングを行いました。こちらは本来の趣旨に沿ったものでしたが、瀬田川流域で活動している人たちとは予算が桁違いで、1台ウン百万円もする大型の機械を何台も導入して根こそぎ刈っていくという形だったので、方法を参考にできるかと言われたら、いまいちな感じではありました。ただ、藻刈りをするに当たっていろいろな大学や団体の人たちを動員した方法については、日本ボート協会や東京の学生連盟がそれぞれ通達を出して、「何日までによりしくお願いします」という形で行っているということをお教えいただけたので、それに関しては、関西の学生連盟にご協力いただければ、瀬田川の団体、
--	--

		<p>ボートだけでなく、カヌーや、そういった団体も協働ができやすいのかなという感じでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最後の「他団体、個人のヒアリング」ですが、先ほど名前が出てきましたが、関西学生ボート連盟へのヒアリングや、年間活動計画のときにお名前を出ささせていただきました京都大学人間環境学研究科の宮下英明教授へのコンタクトなどを実施いたしました。 学生連盟に先ほどお示したような通達が可能であるかどうかを確認したところ、関西学生ボート連盟は、瀬田川だけではなく、神崎川など、ほかの水域にもまたがるかなり大きな団体なので、少々非効率的にはなっていますが、しっかりとした動機づけ、例えば藻刈りを実施すればボートやカヌーがより快適に活動できるというところを前面に押し出していけば、瀬田川だけでなく、よその河川でもそういった活動できて関西ボート界の連携につながるので、それであれば通達に協力いただけることを確認いたしました。こちらについては、来年度も引き続き連携をとっていきたいと考えております。 宮下英明教授に関しては、大学のメールアドレスから連絡をとっている最中です。主に藻類学の専門家でありまして、瀬田川にどういった藻類が繁茂していて、それを駆除するにはどうしたらいいとか、駆除した際に気をつけなければいけないこと、例えば「Aという藻類を刈ったらBが大量に繁茂してしまうから、気をつけながら刈っていかないといけない」みたいなことを教えていただけるといいなと考えております。今そのように個人的な接触を図っております、来年1月の半ばごろにお会いできるとのことですので、詳細についてはひとまずお会いしてからもう一度活動報告書の形でまとめさせていただこうと考えております。 大まかな感じにはなりましたが、報告は以上になります。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> はい、ありがとうございました。そうでしたら、今お話をいただきました近藤さんの年間活動計画について質問等ありましたら、どうぞ。
水草		<ul style="list-style-type: none"> 関東の日本ボート協会という名前が出てきたのがおもしろいなと思いました。前回のときも申し上げましたけれども、レンジャーさんがお一人で頑張ってもいいんですが、レンジャーさんが「他人が動く仕掛けをつくる」でもいいと思っていて、そのときにお金が足りないだとかパワーが足りないのであれば「パワーがある人、お金がある人は一体誰？」というふうにごると見渡して、そこをつなぐというのがあると思うんですね。それは日本ボート協会もあるし、よくよく思い浮かべてみれば、自分が子供のころは船舶振興会のCMがよくテレビで流れていたなど。そもそも琵琶湖には競艇場もあるのでそういうところとか、そこからさらに話を広げると、例えば琵琶湖の水を使っている工場、もしくは琵琶湖から淀川のほうに流れていく途中にある大きい工場や企業に「おたく

		<p>の企業は水まで考えて活動してますというPRのために何か協賛しませんか」と。企業さんの中には地域住民との連携やPRという場を設けたいと思っている企業があるでしょうから、そういうところをうまく狩り取っていくと。もしお金がなければ、例えば「何月の第何曜日ぐらいなら工場をとめて暇だから、そのときに社員を社会貢献ということで何十人か行かせますよ」とか、それがなくても「そういうときにバスぐらいなら回せますよ」とか、そういう「社会貢献」という言い回しで近づいていくという方法もある。あるいは、ほかの流域でのやり方を、例えば学連であれば全国大会とか七帝戦などがあるでしょうから、そういう機会に「何かない？」と聞いて「ああ、うちはこんなうまい仕組みを知っているよ」とかあれば、それをこっちに持ってきて、二匹目のドジョウというか、他人のふんどしというか、そういうものをうまく活用して自分の手柄にしてしまってもいいですし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我々としては結果オーライですので、そこは別にかっこいい方向じゃなくてもいい。そういうところをやるという意味では、他流域だからだめとは全然思っていない。逆に縮こまって1人の頭で考えるよりは他人を動かして、三人寄れば文殊の知恵じゃないですけども、よりいいアイデアを取ってきたほうがよっぽど身にはなると思うので、別に縮こまる必要はないと私は思います。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもおもしろい計画だと思います。 ・2つありまして、特にボート部へのヒアリングというのは近藤さんじゃないとなかなかできないことだと思います。それで、ぜひヒアリングされた結果の記録をしっかりと残していただきたい。例えば、近藤さんがやめられた後もほかのレンジャーなり関連する人がそれを参照できるような形で残していただけたら、より貴重なものになるのかなと思いました。それが1つ目。 ・2つ目が、今、所長もおっしゃったように、ほかとの連携という意味で、最近滋賀県の中で水草を活用していこうという市民グループができて活動していますので、そういうところにも藻刈りやシンポジウムみたいなのをするときには声をかけられたらいいんじゃないかなと思いました。その連絡先も事務局経由でお知らせするようにしますので、もしよろしければそういうところもアプローチして検討していただければいいんじゃないかなと思います。
	近藤	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・東レのボート部とかもいいと思うんですけども。あと、学生団体のIVUSAも大々的に水草をやってて。 ・それで、水草環境改善というところで宮下教授とまた接触される機会があると思うんですが、環境改善なんだけれども、どういう姿が望ましい

		<p>のか。「水草」と一口に言っても、例えば外来のナガエツルノゲイトウとかオオバナミズキンバイというのものもあるし、もともと古くは湖中には外来のオオカナダモとか、また近くの川にはオオフサモとか、いっぱいあつたりします。瀬田川を見ても、ヨシがあつて、そこに今言ったような植物がくっついていたりするんですけども、水草環境というのはもちろん前提としてあるんですが、大学生でもあるので、ついでに学術的なところまで押さえといてもらうのがいいんじゃないかなと思ってまして。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あと、地元漁協との接触はどうか。これからですか。
	近藤	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協の方とはまだ接触できてないです。これからやってみようとは考えてます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ああ、そうですか。それはぜひ。うまくいくと、シジミをもらえるかもしれないので（笑）、その辺は仲よくして。 ・ただ、片や、漁業さんからすると、最近はそんなに漁に出ておられないからあれやけれども、競技の練習をしていると、ちょっとバッティングしてたようなことも過去にあつたと思うので、その辺を解決するためにもうまく当たっていってもらいたいかなと思ってます。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・年間活動計画の承認もこの委員会の内容かと思うので、ちょっと確認しておきたいと思います。2月か3月、年度末ぐらいに小さい場での交流会を計画の中に盛り込んでおられますが、あつという間に3月になってしまうと思うので、どんな感じでできそうかというイメージを持っておられたら今の段階で教えてもらいたいかなと思います。私はあんまりボート部さんの実態がわからないんですけども、学生さんだったら「二、三月になったらみんなどこかへ行って、あんまりボート部の人がいまませんでした」ということにならないのかなという心配もあつたので、学生主体の交流会じゃないということもあり得るのかなとも思いますし、もし今の時点での構想があれば教えてください。
	近藤	<ul style="list-style-type: none"> ・今は、同志社さんのボート部とはもう連携がとれてまして、春休み、2月3月の間に何かしら近くの龍谷さんなり立命さんなりを巻き込んでちょっと交流会をやっていこうと。大学のボート部での交流会を実施するめどはもう立ってまして、それをひとまず順調に進めていけばいいのかなという感じです。 ・それから、2月3月に大学生はいるのかというお話なんですけれども、春休みに入ってもずっと練習だけで、基本どこかに行ってしまうことはありませんので、そちらに関しては大丈夫です。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりました。レンジャーと事務所の意見交換会でも仕掛けや仕組みを聞いていらっしゃると思うので参考にしながら、交流会での内容などもヒアリングするところからちょっとずつ構想して——ヒアリングも、記

		録してもらいたいですし、いろいろと要望があるのですが、交流会の中身もそろそろ考え出してやらないと、気づいたら2月になっていると思うので、頑張って仕掛けてください。
	近藤	・はい、ありがとうございます。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど委員長が「学生さんなんだから学術的な視点も欲しいな」と言ったところの補足です。 ・これは前から申し上げているんですが、外来水草は特にですけれども、なくなればいいと思ってます。「なくなればいい=引っこ抜けばいい」というのは当然なんですけど、なくなる方法はそれしかないわけじゃなくて、まずは生やさなきゃいい。生やさなきゃいいというのは、根づかないようにするにはどうするかもあるし、根づいちゃったのがでっかく成長しないようにするにはどうすればいいかもあるし、成長しちゃうのが拡散しないようにするにはどうすればいいかというのものもあるし、刈り方、刈り取るでもいいし、枯らすでもいいし、いろいろ方法がある。じゃ、マンパワーで刈り続けられればいいじゃないかと。それはそのとおりですけれども、それでは余りにもおもしろくないので、そこにもう少し工夫があると「おお、学術的」というふうになるかなと思います。 ・もう一つは、これも前々から言ってますけれども、学生さんということもあるので、先生や学生さんと交流したときに、例えば「うちは今、植物の成長ホルモンについて研究しているんです」というところに「ここにフィールドがありますよ」という話だとか、「外来種対策をしている先生が何ヘクタールのフィールドが欲しいと言っているんですけど」というふうになってくれば、申請が要るかもしれないですけれども、「ああ、どうぞここを使ってくださいね」と、そういう話のつなぎにもなってきたりする。だから、「研究室でフラスコをちょこちょこやるよりは大きめにやったほうがおもしろいし、100種類ぐらい同時に1年でできたほうがいい」という意見があれば、こちらも「どうぞどうぞ。何ヘクタールでもいいからやってください」というふうにできたりするので、そういう意見を吸い上げるというのでもいいと。 ・私はいつも「悪乗り」と言っているんですけども、どこまで一つのことをおいしく食べられるかというところで、それはやり過ぎと言われるまでちょっと頑張ってほしいなと思ってます。
	近藤	・ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・所長から悪乗りのお墨つきが出ましたので、遠慮なくどんどん取り組んでください。 ・ほかにご意見はございませんか。そうしましたら、委員の皆様から出たご意見等々を踏まえて、まずは計画されているところが実現できるように取り組んでいただくと。あと、連携先とか、いっぱい話が出ましたけ

		<p>れども、そこにもふだんから少しずつ当たってもらうことも大事だと思いますので、そうしたところも頑張ってもらって取り組んでいただくということにして、計画は承認するという事でよろしいですね。（「はい」の声あり）</p> <ul style="list-style-type: none">• では、そのように決定いたします。• そしたら、今の年間活動計画の承認のところはそれでよろしいですね。
--	--	---

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. 審議 (2) 河川レンジャー中間活動報告 b	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そうしましたら、各レンジャーの中間活動報告に移りますので、進め方を事務局から説明いただけますか。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・続きまして、資料ー5「平成30年度河川レンジャー中間活動報告」を用いまして、根木山レンジャー、北村レンジャー、水上レンジャーの順に1人10分で活動の中間報告をいただきたいと思います。その後、質疑応答の時間を各5分程度設けさせていただきます。レンジャーさんにおかれましては、9分たったときに一鈴、10分たったときに二鈴鳴らしますので、それを目安にご報告いただければと思います。 ・それでは、根木山レンジャーからお願いいたします。根木山レンジャーは前のスクリーンにパワーポイントを映して説明されますが、お手元にもその原稿を別冊でお配りしております。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・河川レンジャーの根木山です。よろしくお願ひいたします。6年目の活動がもう後半に入っております。 ・最初、どんなことをしてきたのかということをお報告させていただきながら、来年度も引き続きさせていただきたいと思ひていまして、特に野洲川40周年がありますので、それに向けてどういふふうにお貢献できるのかということをお検討してあります。それに関して地域の状況もお報告しつつ、僕のおアイデアも提案させていただきますけれども、委員の皆様からもぜひご意見をいただけたらなと思ひております。 ・初めに、写真を中心に、主たる活動、どんなことをしていたのかということをお報告します。 ・4つの活動をしていまして、1つ目は、昨年度から引き続き、野洲川をフィールドに、子供たちが体験学習をする住民グループの支援を行っております。もう4年目に入っておりまして、メンバーは子供が30名を超えて、大人も20名を超えて、住民主体の運営にチャレンジしているのですが、大分形になってきたなど。年度当初に計画を一緒につくって、活動ごとに分担を決めてしてあります。1人の人が全部やっているわけじゃなくて、それぞれ分担があつて、事前に打ち合わせして「こんなふうにおやりしよう」ということでサポートを僕のおほうでさせてもらつて、それぞれの住民メンバーが中心になって各活動をやっている。左下の写真は、お母さん2人が担当になって、ホワイトボードやプロジェクターを使って発表のためのミーティングをお進行してくれていると。右側もお母さん1人とお父さん1人が支えてくれながら子供たちとお発表の練習をするとか、そんなことができるようになってきたということおです。 ・2つ目は、これがきょうの主たる話題ですけれども、中洲学区の住民へのヒアリングをしていて、来年の40周年をお契機に、野洲川に住民がどう

	<p>いうふうに継続的にかかわっていけるのかという仕組みについて考えています。これはモザイクをかけていますけれども、ヒアリングした結果を大学生と一緒にワークショップ形式で整理したものです。これは後で詳しくご報告します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あと、昨年度に引き続き、ことしも樹木伐採をする住民とのつながりをやっています。樹木伐採自体は1月から3月にかけて3回予定していて、一応許可申請をいただいて手続は済んだという段階です。今年度は、これまでのところ、ことしの1月から3月に切った木を乾燥させて、それをまな板にすると。さっき所長からもコメントをいただきましたように、あんまり量にはけませんが、話題としてはおもしろいのかなというのと、多分これは学習プログラムとして組めるなというところまでいったと思います。これも後で話が出てきますけれども、各学校へ「樹木の伐採と利用」みたいな形で総合的な学習として提供できるところまでいったと思うので、そういうことは考えていきたいなと思ってます。 ・これは、どちらかという、水上レンジャーのメインの活動に協力させていただいたということで、10月20日の野洲川クリーン大作戦に中洲のこどもクラブにも参加してもらおうよう働きかけて、住民14名が参加してくれたというものです。 ・自己評価としては、皆様のお手元にもあるような形で採点させていただいております。 ・これからが来年の40周年に向けた課題意識と、ヒアリングの結果及びアイデアです。 ・野洲川40周年を2019年に迎えて、今後野洲川で住民が利用と維持管理に継続的にかかわっていく仕組みづくりにつなげたいと考えています。そのためにことしは中洲の住民さんたちにヒアリングをしております、今どういったことができそうなのかという情報をとって検討しているところです。 ・中洲には5つ自治会がありまして、A、B、C、D、Eの5人の自治会長にヒアリングした結果を何となくチャートにした感じです。左下に書いていますように、野洲川を真ん中に挟んでAからEの地区があります。 ・フローチャートとしては、上下の軸が河川整備、特にしゅんせつ、あるいは樹木の伐採を行政に対してどのぐらい要望したいと思っているかという意識差を位置づけています。左右軸は、野洲川の活用に前向きな気持ちを持っていらっしゃる方と後ろ向きな方がいらっしゃるということを表現していますが、やっぱり5人の意識に少しばらつきがあります。 ・単純に言うと、Aの方は、野洲川を中洲だけでなく守山市の宝にしたい、放水路をつくる時の先人の思いをちゃんと語り継いでいきたいということをおっしゃっています。あと、地域での環境についての学習を守山市全体で進めていこうということでリーダーシップをとりたいと思って
--	--

	<p>いらっしゃいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それに対してCという方はまた違った意見をお持ちで、40年前の約束が守られていないと。しゅんせつに関しても十分できてないと。また、土砂がたまって樹木が生えているのは汚い、きれいな野洲川にしてほしい、それがまず大前提だというようなことをおっしゃっています。ただ、野洲川の清掃活動にはもちろん参加するよということで10月20日も参加されていました。あと、野洲川の活用に関しては後ろ向きなところがあります。それから、放水路を挟んで南北の地域差がこの40年でできたじゃないのかなということをおっしゃっています。 ・5人の自治会長さんはほぼ近い年代で、多少年齢差はありますが、小学校のときからの同級生です。Dの人が一番年上で、Aの人が2番目で、CとEの人が同級生でと、そんな感じです。だから、みんなよくわかっていらっしゃって、自治会長会も喧々諤々されているというふうに中洲の館長からは聞いています。でも、Aの方がリーダーシップをとられているので、野洲川の活用について前向きな取り組みが進んでいくというのが中洲学区の基本的な姿勢です。ただ、「中洲は一つ」ということを大事にしながら進めていくにはCの方にも配慮した取り組みをしていかなないとばらばらになってしまうということで、Aの方が苦心されておられる状況があります。 ・あと、Dの方の話がキーになるのかなと思っていて、「うちの地区は離れているから使い悪いけど、もう整備したから、イベントなどで利用して盛り上げてほしい」と。あと、自転車のクリテリウムをされている地域ですけれども、「ああいうの、いいよね。ああいうのもどンドンやってほしい」とか「学区だけでは持て余すので、学区外の人がどンドン来て利用したらいいよ」みたいなことをおっしゃっておられて、この辺がヒントになるのかなと。これまでは割と学区住民さんのことをすごく意識してやってきましたが、学区にこだわらずに、いろんな人が利用していくという方向で考えたらいいのかなということを考えています。 ・整理すると、地域にはAさんから「来年は40周年だからやりましょう」というかけ声がかかっています。ただ、伝統的な地域で、伝統的な行事もたくさんあって、お役目も多くて、あと農業で忙しくされているので、かけ声はかかっているけれども実際新しい活動に参加できる人がいないという状況があります。 ・あと、僕に直接ではないですけども、「やすたんはどういう団体か？」ということで、やすたんに関する情報照会がAさんからやすたんの代表の方に行きました。なので、やすたんのことも40周年に向けて意識してくださっている状況だと推測しています。 ・もう一つ、これはいい動きですけども、ヒアリングをした幸津川在住のKさんという50代の女性の方から連絡が来て、今相談しているのです
--	---

		<p>が、地域外の4人の方と地域活性化の学習をされていて、その実践を来年したいということで、多分このグループが野洲川40周年に合わせてコミットしてくださる可能性が高まってきたなと思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ということで、僕としてはこんなことができるのではないかなと思いつつ、1月以降、調整を進めていきたいなと思っています。 ・すみません。時間がオーバーしてしまったので、後の質疑で補足したいと思います。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございました。委員の皆様から質問、ご意見等々を伺います。どうぞ発言ください。 ・40周年は一つの機会なんですけれども、それを機会に何か新しい伝統ができるといいなと思ってまして。いつも似たようなことを言いますけれども、例えば、左義長とか、どんど焼を復活とかね。そういうところで火を使ったら、それで大きな芋を炊いて食べるような機会をつくるとか。そうすると「毎年決まった量の薪を調達せんといかんやんか」的なところにつながるのではないとか、勝手に思ったりして。「ああ、そしたらヨシもいいな」とかね。ただ、高水敷で火をたく許可が出るのかどうかはまたあれなんですけれども、この前も瀬田川で漁協さんがヨシ刈りをして何か燃やしてたので、そういうようなこともあるのかなと。 ・いい流れが出てきていると思いますが、事務所さんでは40周年は何かするんですか。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> ・では、河川管理者として。 ・40周年というのは、野洲川放水路ができてからじゃなくて、暫定通水から40周年ということなんですよね。だから、できてからじゃないということもあってなかなか守山市以外のところが、つまり野洲川全体に広がりが無いという悩みがあったので、キーワードを「命を守る」にして、「防災を意識しましょう」という形に若干方向修正しました。そうすると流域全体の話になるということで、今、上流から下流まで声かけをしています。それで、会場の手配の関係で、9月ごろだったか、秋になるはずなんですけれども、イベントをすることにはなっております。 ・あとは、もっと広い話で、国交省全体で言うと、例えば名神高速を走っていると、集中工事の看板があるじゃないですか。「何月の第何週は集中工事にご協力をお願いします」と。でも「集中工事」という工事はどこにも存在しなくて、「集中工事」というネーミングをつけて舗装工事だとかトンネルの清掃だとか除草だとかを全部集めているんですね。我々の今まで事業は細々と「何とか地区の堤防整備」だとか「何とか地区の除草」だと言ってやっているんですけども、それではわかりづらいので「野洲川でやっている工事」という感じでパッケージ化しよう。今後、予算要求もそうだし、事業もそうだし、説明もそうだし、パッケ

		<p>ージにしよう。これは別に野洲川に限らず、近畿地方全体で事務所ごとにパッケージでネーミングをつけてやろうというふうになつてます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うちも、その40周年にかこつけて、50周年に向けて何かをやろう。「おいで野洲川 アップグレード50」とか、適当に名前をつけてそういうのを今やろうとしているので、そういうところで住民の意見を伺ったりだとか、もしくは「50周年のときにこういうことをやりたいから、10年前からこういう準備をしてくれ」というのがあったりだとか。例えば、たき火をしたいのであれば「たき火をする場を10年後にはつくってほしい」でもいいでしょうし。 ・あと、これは余り深くはしゃべれないんですけども、南流と北流のところが、特に北流の場合は今資材置き場にしかなくなっているんですが、あの辺をうまく活用して、防災機能を兼ねた市民交流の場にできないかみたいなことを。こちらはもう直接市長さんとやり合ったりもしているんですけども、それが形になってきたときには市民の参画という話が絶対出てくるので、そういうときに、それがKさんなのかよくわかりませんが、興味を持って活動していただける人をお願いしたりだとか、参画を依頼したりだとか呼びかけるということもあり得ますので、そういうつなぎをしていただくのは非常にいいですし、逆に言えば、そういう情報を事務所から動きを見ていただきながらというのはあると思います。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> ・AからEまで各自治会ごとに整理したのを見せていただいて、とても興味深くお話を聞きました。ああやってすごく丁寧に整理していただいて、しかも結構複雑な思いをそれぞれ持っておられるわけですね。立場が違うから対立しているというわけじゃなくて、それでもお互いおもんばかって何かやっていきたいと、そういうところの情報整理というのは河川レンジャーならではのお仕事だなと思いついて伺いました。 ・あと、まとめていただいたものというのは、もとは、最初に写真で見せていただいた、附箋がいっぱい張ってあったものをまとめられたという理解でいいですか。あれとはまた関係ないですか。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・いえ、自分たちの整理の機会としてワークショップを一回とって。これは簡略化というか、概念化しているんですが、作業としてはああいうことをして。報告書にちゃんと書けということであればパソコンでつくりますけれども、きょうは時間がなかったのでとりあえず手書きで。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> ・だから、これの裏にはもっと具体的ないろんな事項が出ているわけですね。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。だから、さっきのモザイクをかけた附箋には固有名詞とか

		が入ってます。
大野		・なるほど。それで、自治会長さんが挙げられた事柄の中に根木山さんが活動メニューとして持っておられるものと重なるようなところはあったんでしょうか。
R根木山		・自治会長さんレベルで具体的に「これをしよう」みたいなアイデアは、言葉としてはないと思います。ただ、環境学習を進めたいというAさんの——まあ、既にそのAさんの提言で、去年、守山市全体で環境学習都市宣言が制度化されているので、そういうものに乗っかって「野洲川学習」みたいなアドバルーンを上げて、さっき企業のことも所長がおっしゃられていたので、企業に「こういう活動に参加しませんか」ということも当然できると思ってます。「守山市挙げて環境学習を進めますよ。野洲川学習を進めますよ」というのをAさんのリーダーシップで進めていただいて、それにあわせて僕らのほうで野洲川近辺の企業さんを回って、それこそ50人出してもらって「樹木伐採を一緒にやりませんか」とか、そういうのができるのかなというのはさっき近藤さんの話を聞きながら思いました。
大野		・そういう意味では、またさらに広がっていくような接点が幾つかありそうかなというようなところですかね。
R根木山		・あと、伐採活動とか水防災活動とか自転車利用というのは、ある種、的という議論も出てましたけれども、河川管理者側の課題解決のための施策に即したメニューなんですけど、ただ、これを決め打ちして住民に提案するというよりかは、「こんなことができますよ」というメニューをこちらからさらっと出しといて、あとは住民さん、あるいはKさんやAさんが「これ、ええな」と言われたら、それを支援するというような構えでいけたらいいかなと。「これ、やりましょう」と言うと、「いや、それはちょっと違うな」と言われたら話が終わっちゃうので、そうならないように持っていきたいなと思います。
大野		・うまくつながっていくといいですね。
R根木山		・はい。
北井		・補足的な質問です。聞いてて私の中でごちゃっとしてしまったので確認なんですけど、ここに書いてある活動人数などを見ていると、やすたんの活動がかなり大きなものになってきててすごいなと思います。それと、野洲川の通水40周年の動きに参加していく話とはまた別のプロジェクトで動いていらっしゃるのですか？やすたんとか、やすたんの根木山さん——やすたんの根木山さんというのはいないのかもしれないんですけども、やすたんの一員としてサポートされている根木山さんが参加するというのではなくて、また別に河川レンジャーの活動として根木山さんがそこにかかわるということですか？やすたんがかかわっていくという

		のはちょっと違うんですね？ 私、今、根木山さんの活動のされ方のイメージがちょっと混乱しているんです。河川レンジャーとして動いていらっしゃるのわかるんですが。
R根木山		・一応、河川レンジャーとしては、野洲川、特にあめんぼう公園が整備されるという前提で、そこで活動する住民グループを組織するという形で今までオーガナイザーとしてかかわってきています。ただ、「僕はよそ者ですよ。コンサルですよ」みたいなかかわりじゃなくて、「僕も一員ですよ」みたいなかかわり方をしています。なので、メンバーのみんなは、僕が河川レンジャーで、国交省から謝金をもらって支援している存在なんだという意識はあんまりしてないと思います。仲間だと思って、その気になってくれていると思ってます。
北井		・通水40周年の活動が起きてきたときに何かつながりをつくっていきこうということですけども、それはやすたんとしてもかかわっていくということなのか、オーガナイザーというか、今まであめんぼうサポート隊に横からいろいろ参加されていた根木山さんが引き続き活動されるということなのか。どういうことになるのかなど。
R根木山		・多分、やすたんに参加されている方は、子供の健全育成、子供が健全に育ってほしいという動機で参加して下さって、ふだん企業で働いているお父さんも休みの日に娘さんと一緒に来て楽しく過ごして下さいと。
北井		・別個の活動ですよ。
R根木山		・うん。ただ、今、やすたんに対してAさんから情報照会が来ていて、多分Aさんが野洲川40周年でやろうと言っている動きに巻き込まれる可能性があるのでは。
北井		・そうですね。一緒にやってくれないかというのがやすたんに来るかもしれないということですよ。
R根木山		・それがやすたんにダイレクトに入ると「そんなのできないよ」で終わっちゃうかもしれないけれども、僕が介入することでできるところを調整できるかなど。
北井		・ちょっと第三者的な立ち位置でかかわられているということですよ。
R根木山		・そうですね。やすたんでやっている樹木伐採も、子供たちやお父さん、お母さんたちは別に保全活動としてやっているつもりはなくて、楽しいからやっている、あるいは薪がとれるからやっているという感じなんです。でも、一応僕のほうで調整して、「これをやると、河川管理者にとってもいいから」というのでつないでいるみたいな意味合いに近いかなど感じてます。
北井		・すみません。やすたんがかかわっていくことになるのか、ちょっとどうかかわり方になるのかと思って。そこが聞きながら混乱したので。

R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・それも僕の中で決めてなくて、結局AさんとかKさんと話をしながら、彼らがどれをチョイスするのかに合わせて対応できたらいいなと思っています。結局、やすたんは、たくさんいるお父さん、お母さんたちの総意でしか動かないので、僕の意味で「これをしよう」と言っても動かないんです。そこはつないでいかないといけないので、そういう役割かなと思っています。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・そういう意味では、やすたんもかなり自立的に動いていて、若干もめごとが起きたりということも書いてあるので、いろいろあるんだなと思うんですけども。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・人数がふえると、当然起きます（笑）。ふだんばらばらの人たちが集まっているので。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。そういう意味では、すごいですね。短期間でですけども、自立的な大きな活動になってきているのがよくわかりました。すいません。ちょっと一人で混乱して。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そしたら、よろしいですか。根木山さん、ありがとうございました。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。（拍手）
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・では、この後、北村レンジャーにお願いしたいと思います。北村さんもパワーポイントを使って説明していただけるということです。それから、お手元の「アマサイすごろく」も北村さんの資料となっております。
R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・こんにちは、北村です。よろしくお願いします。 ・追加資料として、後で報告には入れますけれども、学習ツールとして作成中のすごろくと、それに付随するものしりブックというものを出示しております。もう一段階詰めないといけないですけども、とりあえず現時点のものとしてお持ちしています。試作の段階で、チェックもまだ通ってないものなので、申しわけないですけども、委員の皆さんにだけ配付させていただきました。 ・では、始めさせてもらいます。 ・今年度の活動目的ですけども、私も引き続き活動させてもらっています。瀬田川流域を中心にこれまでの歴史的な景観や人々の営みをきちんと記録して残していきたい、それを次世代に伝えていきたいという思いがありますので、古写真を一つのツールとして収集したり、それにまつわるヒアリングを集めていく、そしてそれを活用したり、場の提供をしたりということを主軸にこれまで活動しています。 ・ミッションも今までと同じです。地域の人と一緒にこのようなツールを使用し、お話をする機会を持っていく、そういう活動を続ける中で河川管理者の方と地域の方たちが同じテーブルでコミュニケーションをとっていけるような機会を創出していければいいなと思いながら活動を継続しています。

- ・「今年度の成果目標とこれまでの達成度」というところですが、ことは大きく4つの項目を挙げておりますので、それに沿って報告させていただきます。
- ・最初の記憶の掘り起こしと情報の共有というところですが、外畑地区、内畑地区、曾束地区、いわゆる宇治川ラインと呼ばれている地区の写真がたくさんあるので、撮影地にできるだけ近いところ、できるだけ年配の方にも来てもらえるような場所の選定ということでイレギュラーですけれども、びわこ池田記念墓地公園さんの休憩スペースを使って写真展をゴールデンウィークに開催させていただきました。年度初めにも報告はしていますが、1,379名の方にご来場いただきました。当然地元の方だけではないですけれども、たくさんの方にご来場いただきまして、26件の河川に関するお話や48件の写真にまつわるエピソードを聞けましたし、長さの強弱はありますが、15名の方から体験談を録音することもできました。実際に写真をご提供いただきました井谷さんという方にも現地にお越しいただきまして、写真を撮影・所蔵されている方とその場にいらっしゃった方との新しい交流の機会もつくることができたと考えています。
- ・今から40年以上前の写真も含めていますが、それらの写真の横で、河川事務所さんからYouTubeに上がっている天ヶ瀬ダム再開発の動画のDVDをお借りして、ずっとモニターで流させてもらいました。無理やりですけれども、昔の風景を見ながら今の事業も紹介できるような工夫をしまして、今の河川のことと昔のことを一緒に考えながらこの場所は京都、大阪から来られている方が大変多かったもので、帰りはいきなり高速に乗らずに天ヶ瀬ダムの横を通り、宇治川の風景を見ながら帰るといような今とのつながりみたいなのもこれほどまで皆さんが実際に足を運ばれたかはわからないですけれども、そういう気分にも少しなってもらえたのかなと思っています。
- ・2番目ですけれども、「河川に対する興味関心を高める」というふうにさせてもらいました。
- ・琵琶湖・淀川流域では、たくさんの方が団体として活動されています。いつか皆さんとコミュニケーションをとれるようになればいいですけれども、まだそこまで手が回っていませんので、まずは琵琶湖本体で活動されている方や近隣で活動されている方とつながっていければいいなと思いついて、出店団体さんがたくさんいらっしゃる水辺の匠にレンジャーとして出店させていただきました。
- ・それから、各団体がみずからの事業として現地で清掃活動をされたり、自分たちで環境学習の事業を企画して実施もされていますが、そういうところに出向き琵琶湖の話をしたり生態系のお話をしたりと、そういう意味での活動の支援も継続してさせていただき、今年度はそこに力を入

れました。「たまたま通りかかったときに掃除をされていたのでやりました」というレベルのものもあるので実際に大きなイベントから小さな日常のものまで日数を上げるとわからないですけれども、自分の時間が許す限りは支援をさせてもらえたので「河川レンジャーという人間がうろろしているな」「おもしろそうだったら来る北村というのが活動しているな」ということは知ってもらえたんじゃないかなと思いますし、私は仕事でこういう環境教育、環境学習についての取り組みについて実施している時間が多いので、そのときに得たノウハウや手法もお伝えできたのではないかなと思っています。

- ・3番目は「レンジャーの認知度の向上」というふうに書かせてもらいました。
- ・一番大きなものとしましては、参考資料-1としてつけてありますが、レンジャーレポート35号の執筆をさせてもらいました。先ほどご報告した写真展のことを紹介していますので、写真展でご縁をいただいた方や実際に写真を提供していただいた方たちにも「こんな形でまとめて、皆さんに伝えていきますよ」という報告をさせてもらっています。
- ・それから、今年度もことし1年間活動した内容についての冊子作成し、この後、報告しますけれども、学習ツールの作成もしております。盛りだくさんではありますが、1年間かけてつくってきた、みんなで作った成果物を持って淡海の川づくりフォーラムで発表してこようと思っています。
- ・パワーポイントには入れていませんが、けさ、朝日新聞の知っている記者さんから、お正月号の滋賀版になりますけれども、琵琶湖・淀川流域の河川で活動する人の紹介をしたいということで取材の依頼がありました。「瀬田川流域で昔の写真を集め、川に関する活動をしている河川レンジャーの北村という形で川に対する思いを聞かせてください」ということで、電話口ですけれども、取材を受けております。どういう形で掲載されるかは全然聞いてないので、ひょっとしたらカットされるかもわかりませんが、認知度の向上という意味ではマスコミにも協力しようかなと思って協力をしてきました。
- ・最後、4つ目は「治水利水に関する学習ツールの作成」という項目を立てました。
- ・今年度、助成金を取りまして、オランダ堰堤、田上地区の砂防事業と天ヶ瀬ダム再開発事業の2つをテーマに、近隣の子供たちにもう少し興味を持ってもらえるような、楽しんでもらえるような学習ツールを作成したいなと思って作成をしています。
- ・砂防事業のほうは、県の砂防協会の方を中心に監修してもらい、河川事務所にも見てもらっています。天ヶ瀬ダム再開発事業のほうは、実際に天再の工事現場に入らせてもらい、打ち合わせも今まで何回もさせても

		<p>らって少しずつツールの作成に向けて準備をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • その一つの成果品として、すごろく。今回はダムツーリズムに焦点を置いて、天ヶ瀬ダム再開発とダム周辺の観光資源を意識しながら、天ヶ瀬ダムという建造物の近隣を楽しんでもらえるような、興味を持ってもらえるようなツールの作成を現在しております。こちらも最終詰めていこうとしているところなので、完成版ができましたら年度末にご報告させてもらう予定です。 • できなかったことは、河川管理者の方を巻き込むのが、少しずつできている気はしていますが、難しいと思っています。早く事務所の方と地域の方とが話しできるような接点も持っていければいいなと思っています。 • 今後ですけれども、年度内にウォーターステーションにおいてもう一度写真展ができたらいいなと思って今企画をしていますし、川づくりフォーラムでも報告をしてこようと思っています。あと、各種ツールを早く完成させて少しでも周知活動にも時間を割いていきたいと思っています。 • 以上です。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> • はい、ありがとうございました。委員の皆様、質問、ご意見等をどうぞ。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> • 引き続きとても重要な活動だと思って聞かせていただきました。 • 写真を結構集められたかと思うんですけれども、それらはデータベースみたいな感じで整理されているんでしょうかというのが1つ目の質問です。それからもう一つが、これは単なる思いつきのアイデア程度で聞いていただければいいんですけれども、例えばこういうすごろくとか砂防の教材にそういう古い写真を活用する可能性はないんでしょうか。その2点をお伺いできればと思います。
	R北村	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございます。私が手元にお預かりしている写真のデータは、自分がわかりやすいようにですけれども、整理はしています。エクセルで一覧をつくっていますし、この間の写真展に関しては各写真ごとのヒアリングも一緒につけて、自分がわかる用の資料程度ですけれども、整理はしています。 • 写真展をした結果ですけれども、外畑地区の方からダム湖で水没してしまった旧外畑地区の写真を250枚提供していただきました。これを私が整理するのは簡単なんですけれども、地元の年配の方たちがちょっとやる気になりまして、自分たちで全部デジタル化もされましたし、整理も自分たちでしたいと言って、今しておられます。今後この250枚の写真に関しては、まず、近隣の地区の方たちの手元に置きたいという皆さんの思いを踏まえて、写真集を皆さんで編集してつくる予定ですので、そのお手伝いをします。それから、頑張ってスライドショー形式にもつくられ

		<p>たので、その上映会も、ちょっと後手後手になっているんですけども、年度内に地元でしていきたいなと思ってます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私が整理しているものと地域で整理しているものの2種類ありまして、これは地域の財産だと思ってますので、将来的には博物館に寄託する予定で今話を進めています。 ・ツールへの転用なんですけれども、できたらしたいなとは思いつつ、まだ本体がどうなるかわかってないので、スペースを見たら入れる予定です。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> ・今のお話の中にあつた、最終成果というか、「将来的には博物館のほうに」ですとか、あとは、住民の意見の掘り起こしのところで写真の取りまとめの話があつたんですけども、住民意見の掘り起こしはいいんですが、掘り起こしはあくまで手段でしかなくて、それをどういうふうに——いわゆる「河川管理者とつなぐ」になるわけなので、「ただつなぐ」じゃなくて「どういう形でつないでいくか」というところとか、写真集のほうも、写真集そのものはすばらしいんですけども、どのように河川管理者につなぐのかというところについてはどうお考えですか。
	R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・正直なところ、皆さんがどのようにつないでもらいたいかは私も情報収集の途中なので、今アクア琵琶でされている淀川の写真展みたいな形で何らかの活用をしてもらえたらいいなとも思います。 ・それから、報告書には挙げてないんですけども、以前ダムの問題があつたところなので、いまだにプラスの意見とマイナスの意見をおっしゃる方がたくさんいらっしゃいます。ただ、時間もたつているので、「今の担当者とお話をしたら何か変わるかな」という方も最近はこちらこちらお見かけするようになりました。ちょっと管理がダムの<u>トウカ</u>になってしまうんですけども、河川管理者と接点を持ちたいと言われた方たちを少しずつでもつなげていけるようなものにするにはどうしたらいいかなというのを今考えている最中ですし、逆に何かいいアイデアがあつたら教えてもらえたらなと思ってます。ネタとしては多分しゃべるネタにはなるんだろうなと思うんですけども、現在の事業とどうつなげていくかというのが私にとっては一番大きな課題だと思ってますので、その辺を意見交換会等の場所でぜひアイデアをいただけたらありがたいなと思ってます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・下流で写真展をされたのは5月でしたか。びわこ池田記念墓地公園で。
	R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・1,400人近く来て、そのうちの何十人かとは実際に言葉を交わしてもらっていると思うんですけども、どういうことがあつたとか、どういう話が出たかというまとめはありますか。
	R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・私のメモというか、エクセルのシートなんですけど、それはつくってます。

		<p>きょう資料で出そうかなと思ったんですけども、かなり枚数がいってしまうので、配布資料としてはもう少し整理したほうがいいのか、どういう形で委員会に報告したらいいのかなど思いながら。すいません。ちょっと年度末かなと思って今回持ってこなかったんですけども、一覧はあります。</p>
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・逐一ということではなしに、例えば今もこのすごろくをつくってもらっているんですが、あの道を通っても天再の事業がわからない。工事の看板は出ているんだけど、世の中の方は、「再開発」というのが全面に出てしまうと、「何をやっているんだろう。再開発の工事をやっているけれども、中身は知らない」ということがたくさんあると思います。なので、「昔は、外畑にしろ、こういう姿だった」「天ヶ瀬ダムのために高台へ移転しました」、なおかつ「できたダムの中でまた工事をしてます」と、そういう場所でも今事務所さんが取り組まれている話とか、昔の上映会ができるのであれば今の工事の部分を一緒に見てもらうとか、そういうこともあるかなと。 ・あと、掘り起こしということであれば、多分放水路を切りかえたときのことを地元の方はよく覚えておられると思います。40年であればね。そういうところも関係するので、つながっていくかなとったりしているんですけども。 ・ほかにいかがですか。では、ありがとうございました。
R北村		<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。（拍手）
△中西		<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。 ・それでは、最後に水上レンジャーから発表いただきます。お配りの資料も前のスクリーンに映せるようにしております。では、よろしくお願ひします。
R水上		<ul style="list-style-type: none"> ・河川レンジャーの水上です。根木山レンジャーと北村レンジャー、2人の大先輩の後で、紅白ではないですが、大トリを務めさせていただくのはプレッシャーがかかりますけれども、聞いていただきたいと思います。 ・資料は、パワーポイントを1枚だけ使います。最初に、資料-5の後ろのほうに私の活動を書いていますので、こちらを説明させていただきます。 ・「住民と行政がともに考える川づくり」ということで、ビジョンは、いろいろ書いていますけれども、最終的には住民と行政が連携した住民参加の川づくりが実現することを目標にしています。 ・ただ、すぐにはできませんので、ミッションとしましては、サブテーマとして「地域住民参加の川づくり」「企業参加の川づくり」「地元中学校参加の川づくり」ということを考えています。 ・まず「今年度の成果目標とこれまでの達成度」ですけれども、1つは企

	<p>業と地域住民が川づくりに参加できる仕組みづくりをやりました。私は昨年から河川レンジャーとして活動させていただいていますが、昨年度に、1企業ですけれども、イマックさんという企業にヒアリングをしたところ、その活動を理解いただき、今年度は行政と企業、地域住民がともに活動する野洲川の河川清掃を実施することができました。評価はCということで、後でまたこの理由を説明させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一つの「地元中学校参加の川づくり」は、昨年から継続的にやっております立命館守山中学校の野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査についてYRPという意見交換会を開催して、行政と住民の思いをつないだモニタリング調査ができました。 ・評価できる点として、特に今年度、CSR活動による企業参加の川づくりの活動は、野洲川清掃活動を通じて企業との信頼関係ができたし、また住民が川づくりに参加できるような仕組みづくりに向けて来年度はやっていけるのではという感触を得ました。 ・それにつきまして今から詳しく説明させていただきます。次の12ページですけれども、1つは、先ほど言いました、企業と地域住民が川づくりに参加できる仕組みづくりということで、春と秋の2回やることを考えました。春は「川を守る」ということで野洲川の清掃活動だけやろうと。それを受けて、秋には「川を守る」清掃活動や「川を利用する」水遊び、それから「川から守る」ということで防災もやろうと。 ・右側の(1)を見ていただきたいと思います。実施は春を考えていたのですが、事務所と調整した結果、河川愛護月間にやりました。ところが、ここで事件が起きました。ほぼ活動計画どおりに調整したのですが、ことしは人間の命にかかわるような酷暑でしたので、大分悩んだのですが、秋に延期しようということになりました。結果的にそのときは、酷暑どころか、台風が上陸しまして、川の活動が全部飛んでしまった。 ・ここでネガティブに考えたらいけないのでポジティブに考えて、この計画をうまく生かして秋にさらなるバージョンアップをということで考えたのが右下の計画です。 ・まず、「川を守る」だけでなく「川を利用する」「川から守る」と。ここでどういうことをやったかは後で詳しく説明しますけれども、計画としては、イマックさんがやっているCSR活動だけでなく、いろんな清掃活動をしています。1つは、行政(琵琶湖河川事務所と守山市)が野洲川クリーン作戦をやると。それから、2番の、企業さんが中洲地区で春と秋にやっておられると。あと、立命館守山中学校が、調査だけでなく、河川清掃をやると。そして、先ほど説明がありました、なかす野洲川たんけん隊。これは、地域住民の方がここでいろいろ活動されていますので、根木山レンジャーに協力いただいてやっていこうと。 ・結果どういふふうになったかというのは、今から前のパワーポイントで
--	---

	<p>説明させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋は「住民と行政が共に考え、共に活動する川づくり」ということでバージョンアップしました。1部は、「川を守る」をテーマに、河川清掃をやる。2部が防災イベントということで土のう積み体験や防災かまどによる非常炊き出し体験、それから水遊び。前回、事務所長から「川の中の遊びは8月9月ごろがいいのではないか」と言われたのですが、結果的に9月も台風が来ましたので、10月下旬にやりました。少し寒かったですが、皆さん楽しかったということでした。それがイベントの内容です。 ・それで、どういうふうにしてやったかという、企業と住民の方と守山市、琵琶湖河川事務所、それからなかつ野洲川たんけん隊を河川レンジャーの私がコーディネートをしました。特に守山市自治会は、初めは計画にも入っていませんでした。ただ「国交省のためなら出るの、何人ぐらい出したらいいのか」と言われたので「自然体でやってください。気持ちの熱い人が来てください」ということで、この呼びかけは自然体でやりました。その結果、10数名参加していただきました。 ・先ほど事務所長も言われましたが、私はほとんど動いていません。コーディネーターとして調整だけをして、皆さんが参加しているところを見ているという形でやっています。 ・主な意見をここに書いていますけれども、非常によかったと。自治会の方は、来年度もやったらどうかと言われていました。ただ、内容が盛りだくさんで、1時間ではなかなか河川清掃ができないので時間をふやしたらどうかとか、活動範囲を分けてもっと広い範囲をやったらどうかと。あと、防災訓練もできてよかったと。これは大変だったのですが、防災訓練もうまくできました。それから、これは1つ反省ですけれども、この後、参加者で交流会をしました。バーベキューをしようということで河川管理者からもオーケーをもらってしたのですが、コンプライアンスなどがあり一緒に同じ鍋をつけないと。そこに住民の方も違和感を持たれたようで、ここのところを調整しないと。 ・この日、週間予報ではいい天気でしたが、朝起きたら雨でした。これももし潰れていたら私の活動は何だったということになったのですけれども、結果的に何とか助かったということです。 ・資料の13ページを見ていただきたいですけれども、成果としては、今説明しましたように、企業と地域住民が川づくりに参加できるようなきっかけづくりができました。それから、計画していたが実施できなかったことは、立命館守山中学校に参加していただくことができなかったと。その理由は、ここもまた事件が起きたのですけれども、前日に調査をする予定で、それと一体になってやるということだったのですが、スズメバチが発生して調査ができなかったため参加できなかったと。あと、先
--	--

	<p>ほど言った交流会でのコーディネートもできなかったと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の2番目ですが、従来から継続して住民（立命館守山中学校）と行政の思いをつないでコーディネートをしました。ことしは、調査項目にヤナギの抑制実験を追加しました。以前これを説明したときに事務所長から「ヤナギの皮を剥いで、いろんなものを塗って見たらどうか」と言われましたので、いろんな実験をやりました。これは水大賞へのエントリーを目指したのですが実現できなかったため、来年の課題ということで引き続き支援しながらやっていきたいと思っています。 ・14ページの最後、「今年度における今後の課題」ですけれども、川づくりについては、参加者へのヒアリングを踏まえて、来年さらなるバージョンアップをしていきたいと。それから、地元中学校参加の川づくりについては、去年やったように、今の成果を行政に伝えるということで2月に意見交換会を開催する予定で、もう既に調整を始めています。 ・時間の関係で説明が早くなりましたけれども、以上です。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございました。それでは、質問、ご意見等をお伺いします。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・もうことしはないかもしれませんが、防災かまどの炊き出しというのはおもしろいなど。その話を聞きながらふと思ったのが、最近災害が多いということで意外と非常持ち出し品や非常食を家の中にため込んでいて、ため込んでいると大変だから、よくマスコミなんかでも「食べながらストックを回しましょう」「ふだん使いしながら常にストックしておきましょう」ということをやっていると思うんですけれども、しょっちゅう缶詰を食べているわけにもいかないの、なかなかそれもうまくいかないと思うんですよ。だから、こういう機会に例えば「家にある期限が切れそうなものを持ち寄ってみんなで食べませんか」とかにすれば、持ち寄った人は自動的にアリ地獄みたいにここに参加させられるという仕組みになるかもしれないし、逆に自分の家で処理し切れないものを寄贈して他人に食べてもらうことで食べ物を捨てるという罪悪感も薄まるような場に仕込めば新たな人を呼べないかなと。もうバーベキューじゃなくなっちゃいますけれども。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・そこなんです、問題は。実は、琵琶湖事務所の人は賞味期限一步手前ぐらいのものを持ってきてやってくれたんですね。ところが、片方はバーベキューで肉を食べているわけです。それでちょっと距離が縮まらなかったというのがあるから、所長が言われるように最初はそれをやって、訓練が終わった後に交流会としてバーベキューにみんなが参加できたらいいなと思ってます。だから、全てそうしなくていいと思うので、それはいいご意見ですので、来年度ぜひまた。 ・特に防災かまどの場合は、公園では実験ができないんですね。煙を出し

		<p>たら、町の人が怒ってきますわね。ところが、川の岸边ですから、煙を出しても火事にもならないし、ある意味で、これは来年の40周年に向けて、「いざというときにどうするか」というところももうちょっとバージョンアップしたいなと思ってます。</p>
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・さっき根木山さんのところでも言ったけれども、毎年楽しみつつできるようになっていくといいなと思います。 ・今のに関連して、バーベキューのところの説明の中でコンプライアンスどうのこうのという話がありましたが、あれはどういうことですか。
R水上		<ul style="list-style-type: none"> ・バーベキューは、私の考えですけれども、当初お金を出してみんなでやろうという話だったんですよ。ところが、行政は、割り勘負けはだめなんです。要するに、みんな均等に出してやりましょうということで。そのときに、食べ物をどうするかと。買いに行かないといけないんですが、みんながばらばらに買うよりも、そこはイマックさんに主体的にやってもらいましょうと。かまどの体験から。それを仕掛けたんですけれども、行政が金を渡してイマックに用意してもらおうというのはどうかということで、先ほど所長が言われたように、「それでは持ち寄りしましょう」ということに変えたんです。ただ、持ち寄りしたために、片方は非常食を食べているし、片方は焼き肉を食べていると。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・ただ、行政で金を出すというのは、それは参加者が会費を出すのではないんですか。
R水上		<ul style="list-style-type: none"> ・うん、そういうことですがけれども、そこがちょっと微妙なところ、グレーのところだと思うんです。担当した役所の上の人たちがそこを心配されて、一方ではバーベキューはあんまりよくないと。違反ではないんですよ、自由使用の範疇ですから。それと、河川公園の中ではだめだと書いてあるから外でしましたし、そこは全部調整しましたのでどうもないんですけれども、行政が一緒になって住民の人と——まあ、河川レンジャーも利害関係者ですから、そういうところはちょっとどうかというのがあったんです。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが会費を出せば、別にそこはかたく考えなくてもいいんじゃないかという気がするんですけども。
R水上		<ul style="list-style-type: none"> ・そう。ただ、そこは私の調整不足かなと思います。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・ただ、バーベキューにこだわってしまうと、準備する人とか後片づけとか、現実問題としては結構大変。
R水上		<ul style="list-style-type: none"> ・ただ、行政の人も含めて残って、みんなで片づけてきれいにして。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・もちろん、そうなんですけどね。
R水上		<ul style="list-style-type: none"> ・ただ、「バーベキュー」と言うと、言い方は悪いですがけれども、酒飲み会を行政と住民がやっているのかという形になるから、今度は企業ではなく住民主体にして。企業だからちょっとややこしいですね。企業と

		<p>というのは利害関係者になるから。住民の方は利害関係者じゃないですから、来年は住民の方を主体にした交流会を。</p>
	中谷	<p>・まあ、やり方を工夫して。</p>
	R 水上	<p>・そう、やり方を工夫して。</p>
	中谷	<p>・まあ、バーベキューの手前で、焼き芋ぐらいでもいいんじゃないかなという気がしますけどね（笑）。</p>
	R 水上	<p>・ただ、これまで載せてませんでしたけれども、バーベキューをやりたいというところがいっぱいありますね。例えば、淀川では国交省のほうでバーベキューができるような形をしていますし。</p>
	中谷	<p>・ああ、ありますね。ちゃんと場所が設定されてね。</p>
	R 水上	<p>・うん。それと、所長が言われたように、50年後にはひょっとしたらバーベキューができるような川づくりができるかもわからないし、そこはまさに、私が今やっている、住民の意見を聞きながらと思っています。</p>
	北井	<p>・河川清掃活動の紆余曲折、大変な開催経過だったように思うんですけども、幾つか聞きたいことがあって、呼びかけの主催はどういう形でされたのか。主催は河川事務所さんなのかということと、もう一つは、企業さんや住民、自治会の方、事務所さんが参加されていて、結構感想はいい反応だったと思うんですけども、それぞれの方たちの主体度というか、反応を教えてもらえたらと思います。特に、企業さんはどうだったのかなと思ひまして。</p>
	R 水上	<p>・まず最初の質問ですが、役割分担を考えたんです。私も一人では全部できませんので、行政の守山市と、それから守山市の住民の方々は守山市さんにやっていただくけれども、琵琶湖河川事務所の管理課のほうから声をかけてもらって、やってもらいましょうかと。一方、住民である、まさにメインである企業のイマックさんは、先ほど説明しましたように、前年度からある程度信頼関係ができてますので、説明しに行って実施したという形ですね。</p> <p>・それで、主催はどうするか。ここが大きな問題なんです。主催を私にしたときに、もし何か事故があったときに河川レンジャーが個人で責任を負わなければいけない。例えば、水難事故が起きたり、熱中症になったりしたら困りますし、食べ物を扱いますので、もし食中毒になったら困るので、それは組織でやってくださいということで琵琶湖河川事務所を主催にさせていただきました。だから、問い合わせ先にも書いてあると思います。けれども、裏で私がかまなく利用して動いています。</p>
	北井	<p>・調整に入られて、事務所主催にして開催したということですね。</p>
	R 水上	<p>・そうです。</p> <p>・もう一つは感触ですね。まず、一番上の「非常に良い取り組みだった」というのは自治会の方が言われました。その聞き方も、私が直接聞くと</p>

		<p>「国交省の人だから、いいことを言おうか」となるので、それは中洲会館に頼んで窓口になってもらいました。そこで本音を聞いてもらったら、こういう感想もあったということですね。この中には、根木山さんがお話しされた某自治会長さんの意見も入ってます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あと、この2番目とかバーベキューの意見は企業の方なんです。春と秋に活動されているから、もっと広いところをやったらどうかとか、あるいは川の外でもやってはどうかとか、いろいろ。毎月、川の中ではないけれども、やっていると言われてましたね。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・じゃ、意欲的な感想が返ってきているんですね。もうちょっとできるんじゃないかとか、改善案がいっぱい返ってきたという感じなんですね。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。だから、もっとできるんじゃないかと。 ・それと、企業の関係でもう一つだけ。JAさんにも声をかけたんです。ところが、JAさんはほかにもいろんな活動をやっているからということと断られました。ただ、JAさんでいい人がいて、1人だけ、JAさんではないけれども、チラシを持って行って個人で声をかけたために来ていただきました。言い方は悪いですが、その人を取っかかりにJAさんにうまく話をして行って、JAさんから1人でも2人でもいいので来てくださいと。別に組織じゃなくてもいいので、そこを来年仕掛けていきたいと思ってます。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・あと、YRPを継続的に開催されているので様子をお伺いしたかったんですけども、意見交換会はどんな様子ですか。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・実はスズメバチがいて秋の調査ができなかったんですけども、そのかわりとして、先ほども言いましたように、3年生を主体に、ドローンで撮った写真でヨシなどの仕分けをみんなでやりました。それから、柳の木を伐採するのは大変だから柳の木の皮を剥いで枯らしていきましようということで、その調査をYRPでやりました。 ・去年、先生が変わったらどうするんだという話がありましたが、ちょうど顧問の先生が変わられたんです。そこがうまく連携できて、特に野洲川河口部のYRPにつきましては、行政の環境課が物すごく動いてくれましたのでそこは非常にやりやすく、三者で信頼関係もできてます。それで、1月に打ち合わせをするんですけども、2月か3月にこのYRPの結果を発表しようと考えております。もちろん淡海の川づくりフォーラムにも行くはずですので、また聞いてください。賞を取りに行ってますので、ぜひお願いします。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・発信活動が盛んになっているようで充実していらっしゃるなと思います。ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、どうもありがとうございました。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・どうもありがとうございました。（拍手）

	中谷	<ul style="list-style-type: none">• それぞれ3人のレンジャーさんから報告をいただきました。近藤さんはこういうのを参考にさせていただいて、「ああ、ここはくっつけるところがあるな」とか、またいろいろ取り入れるなりして頑張っていたければと思います。レンジャーさん、ありがとうございました。
--	----	---

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
6. その他 (1) 今後のスケジュール(案)	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そうしましたら、次へ進ませていただきます。「その他」の項目ですが、今後のスケジュールについて説明をお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・時間が過ぎておりますので、手短かに説明させていただきます。 ・資料－6、4月から3月までのスケジュールが書いてある一枚物の資料でございます。 ・この時点で12月末でございますので、残された1月、2月、3月に何をするかということでございますが、今後予定しておりますのが第2回の意見交換会です。1回目を踏まえて、さらにきょうのご意見もいただきましたので、できれば、今後のアウトプットの目標ですとか、そういったことをテーマにした意見交換会を1月末ごろに考えたいなと思っております。 ・それから、レンジャーの皆様には1月、2月の計画もきょうご報告いただきましたので、それらの活動について報告いただく第56回の制度運営委員会を2月の後半から3月上旬ごろに開催させていただきたいと思っております。 ・あと、河川レンジャーミーティングや勉強会に関することでございますが、勉強会につきましては現地実習なども考えたいなと思っております。 ・参考資料にも出てまいりましたレンジャーレポートですが、今後1月、3月に水上レンジャーや根木山レンジャーの活動状況を中心に報告していきたいと考えております。 ・また、2月の中旬には淡海の川づくりフォーラムの開催が決まっております。こちらのほうでもレンジャーの活動が出てまいりと思っておりますので、関連が高い行事ということで紹介させていただいております。 ・以上でございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。 ・今ほど説明があったとおりですが、日程調整等を含めまして、委員の皆様にはご協力いただきますよう、お願いいたします。 ・ご質問などはないでしょうか。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
6. その他 (2) 河川レンジャーレポートVOL35発行について	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、次、レンジャーレポートの発行について説明をお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料－1です。北村レンジャーからも紹介がありましたように、5月の連休に活動されました地域の記憶掘り起こしという行事を中心に報告しております。また、新しく近藤レンジャーが入られましたということを紹介しております。こちらは9月に発行しておりますので、また確

		<p>認いただけたらと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上です。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。もう既に9月に出ているということです。 ・裏面が白だったのはもったいないなと気になっております。次に出すときは何か工夫して、いろいろ追加してもいいのかなと思います。 ・これは具体的にどの辺に出回っているのですか。今ごろ聞いて失礼ですが、どういうところへどれぐらいの数をまいているとか。今わからなければいいですけども、ここに置いているのと、関係団体とか、レンジャーさん自身もまいてもらっているのですか。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。積極的な活用をしていきましょう。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページにも掲載しておりますので、どなたでも一覧できるようになっております。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ、ホームページは見に行く気持ちのある人でないと見に行かないので。今の時代はほとんどの人があれですけども。ここへ足を運んでくださる方とかアクア琵琶でも積極的にお願いしたいと思います。

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
6. その他 (3) 傍聴者からの意見	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・あと「傍聴者からの意見」に移りますが、本日傍聴の方はいらっしゃらないですね。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・本日はいらっしゃいません。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ということで、一旦予定の議事はここまでとさせていただきます。みなさま、ありがとうございました。

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
7. 閉会	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、第55回制度運営委員会を終了させていただきます。この後、委員の方々には残っていただきまして、非公開審議として制度運営に関するご議論をいただきたいと思っております。レンジャーの皆様、どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。 ・資料配布などの準備がございますので、次の議事を16時20分から始めさせていただきます。

第 55 回 河川レンジャー制度運営委員会 議事要旨

日 時：平成 30 年 12 月 27 日（金）14:00～16:15（本会議）、16:20～18:15（意見交換）

場 所：ウォーターステーション琵琶 1 階会議室

出席者：制度運営委員会委員：中谷、北井、大野、水草

琵琶湖河川レンジャー：根木山、北村、水上、近藤（*本会議のみ出席）

琵琶湖河川事務所：奥野、藤井

流域連携支援室：松岡

業務受託者：中西、今井、小野

（敬称略）

1. 本会議（14:00～16:15）

（1）議事

■河川レンジャー任命式（近藤啓太 河川レンジャー）

■報告

- (1) 第 54 回河川レンジャー制度運営委員会の議事録について
- (2) 琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所意見交換会について
- (3) 琵琶湖河川レンジャー勉強会「第 1 回 水防災研修」開催報告

■審議

- (1) 平成 30 年度 河川レンジャー活動計画（案）の承認について
- (2) 河川レンジャー中間活動報告

■その他

- (1) 今後のスケジュール（案）
- (2) 河川レンジャーレポート Vol. 35 発行について
- (3) 傍聴者からの意見

（2）結果

1) 河川レンジャー任命式

○第 54 回制度運営委員会（H30.6.7）の審査を経て合格した近藤啓太氏に河川レンジャー任命書の授与が中谷委員長より行われた。

（委員長より）

フィールドの瀬田川は、大きく見るときれいな風景だが、部分的に見ると、ごみが多い。そのような中で「沿川の住民とのよりよい川づくりのためにどういう連携ができていくか」を踏まえ、自身の特徴を生かした活動を進めてほしい。

2) 報告

○項目(1)～(3)について、事務局より報告があった。（*詳細は議事録を確認）

3) 審議

(1) 平成 30 年度 河川レンジャー活動計画（案）の承認について

○近藤河川レンジャーの年間活動計画（案）が承認された。

⇒計画にある 2 月～3 月期予定の交流会についても実施の目処は立っているとのこと。

(主な意見・助言等)

- ・河川レンジャーは「他人が動く仕掛けをつくる」でもよい。社会貢献の観点から、水面利用団体、また琵琶湖の水を活用する企業などをつなぎ、活動資金の協賛・人的な動員を受けていくという方法もある。
- ・ボート部へのヒアリングは、近藤河川レンジャーでなければならない。ヒアリング結果を残すことで、将来のレンジャーの参考として貴重なものとなる。
- ・最近、県内では、水草の活用を促進する市民団体が活動しており、そのような団体への呼びかけも活動としてよい。連絡先は、事務局を通じてお知らせする。
- ・水草環境改善の「水草」にも様々な種類があり、専門家に助言をもらいながら、環境改善を前提として、学術的な押さえもあるとよい。

(*各委員からの助言・意見等詳細は議事録を確認)

(2) 河川レンジャー中間活動報告

- 根木山河川レンジャー、北村河川レンジャー、水上河川レンジャーより中間活動報告があり、委員より意見・助言、質疑が行われた。

(*各委員からの助言・意見等詳細は議事録を確認)

4) その他

(2) 河川レンジャーレポート Vol. 35 発行について

- 現在は表面のみで誌面構成を行っているが、裏面の活用も今後検討していく。

2. 意見交換 (非公開) (16:20~18:15)

(1) 意見交換

- 琵琶湖河川レンジャー活動のさらなる活性化に向けた意見交換が行われた。

以上

平成 30 年度 第 2 回 琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所 意見交換会 開催報告

■日 時：平成 31 年 2 月 15 日（金）14:00～17:00

■場 所：ウォーターステーション琵琶 1 階会議室

■趣 旨：

琵琶湖河川レンジャーと琵琶湖河川事務所職員が、瀬田川・野洲川・琵琶湖に関わるものとして、それぞれの立場から語り合い、行政・河川レンジャー・住民の役割を認識・共有したり、河川の未来像を描いたりする機会とする。

その中で、第 1 回意見交換会に続き、「琵琶湖河川事務所に寄せられている地域ニーズに対する活動」について意見交換を行う。

■出席者：琵琶湖河川レンジャー：根木山 R、水上 R、近藤 R
琵琶湖河川事務所：小谷 副所長、奥野 保全対策官、藤井 係長
流域連携支援室（河川財団）：松岡、今井、小野、武田

■議 事：1. 報告

(1) 今後の河川レンジャー活動の視点（河川管理者(案)）

2. 意見交換

(1) 琵琶湖河川事務所に寄せられている地域ニーズに対する活動

○今後の河川レンジャー活動の視点（河川管理者(案)）

○河川レンジャー活動に対する支援

○地域ニーズに対して河川レンジャーで応えられること

3. その他

(1) 第 56 回河川レンジャー制度運営委員会に向けて（事務連絡）

(2) 河川レンジャーレポート Vol. 36 発行について

■開催状況



■結果 (以下 琵琶湖河川レンジャー：河川レンジャー、琵琶湖河川事務所：河川事務所)

1. 報告

(1) 今後の河川レンジャー活動の視点 (河川管理者(案))

第 55 回河川レンジャー制度運営委員会 (H30.12.27) において、委員、事務局で河川レンジャー活動のさらなる活性化に向けた意見交換で確認された内容の報告 [表 1] と琵琶湖河川事務所より提示された「今後の河川レンジャー活動の視点 (河川管理者(案))」[表 2] の説明を行った。

表 1. 第 55 回河川レンジャー制度運営委員会 (H30. 12. 27) 意見交換確認事項

「河川事務所に寄せられている地域ニーズ」に対する活動について

○河川レンジャーには、平成 31 年度以降の活動について、これまで取り組んできている活動に加え、「河川事務所に寄せられている地域ニーズ」に対しても意識して取り組んでいただく。

(新たに追加していくのではなく、これまでの活動を活かして取り組んでいっても良い)

○委員会は、任期満了に伴う継続審査時、または任期中の次年度以降の年間活動計画 (案) の審議について、「河川事務所に寄せられている地域ニーズ」に対する取り組みが反映されているかを確認し、その内容について十分な審議を行う。

(確認できない場合は審査合格または承認を受けられない場合もある)

○レンジャーマネージャーは、河川レンジャーに委員会の確認事項を伝え、「河川事務所に寄せられている地域ニーズ」に対する活動に取り組むようにアドバイスをを行い、次年度以降の年間活動計画 (案) に反映していただく。(反映がないと委員会からの審査合格および承認を受けられない場合もある)

表 2. 今後の河川レンジャー活動の視点 (河川管理者(案))

平成 31 年度以降の河川レンジャー活動の視点 (案)

○河川レンジャーは、より大きく社会に貢献できるよう「河川管理者が取り組むことの難しい住民ニーズ」に関する活動を充実させ取り組む。

※ 1 : 河川レンジャー制度運営委員会は、この平成 31 年度以降の河川レンジャー活動の視点 (案) により任期満了に伴う継続審査時、任期中の次年度以降の年間活動計画 (案) 審査時並びに新規河川レンジャー採用審査時の審議において評価を行う。

※ 2 : 平成 31 年度以降の河川レンジャー活動の視点 (案) に基づく活動を確認できない場合は、河川レンジャー年間活動計画は承認しない。

※ 3 : 年間活動計画が承認できない場合は、任期中であっても河川レンジャーを継続することはできない。

2. 意見交換（以下 琵琶湖河川レンジャー：河川レンジャー、琵琶湖河川事務所：河川事務所）

「1. 報告」の内容を受けて、以下について意見交換を行った。（主な意見）

(1) 今後の河川レンジャー活動の視点（河川管理者(案)）について

○河川レンジャーは、提示されている地域ニーズに対する取組みに対してでしか評価されないのか。

⇒「河川レンジャー」誕生の基となる淀川水系河川整備計画に記載されている内容に基づいた取組みに対しても当然評価される。加えて、琵琶湖河川事務所が管理管轄している河川の地域状況から今回提示している地域ニーズに対しても取り組んで欲しいとの意図である。[河川事務所]

○趣旨からすると「河川管理者が取り組むことの難しい住民ニーズ」ではなく『河川管理者と河川レンジャーが協働して取り組む住民ニーズ』の表現が合っているのではないかと。

⇒今回提示している案については、まずは議論を進めていくための第一案であり、河川レンジャー制度運営委員会委員にも併行して照会中であり、様々な意見が寄せられている。今後、議論を重ねていく中で、記載表現や内容についても変わっていくものと捉えている。[河川事務所]

○行政経験者でもない限り、一般の地域住民から任命される河川レンジャーは（特に新任や2年目）、河川行政の状況や河川の知識、沿川の住民の状況などを充分理解できていない中で、資料にある「河川管理者が取り組むことの難しい住民ニーズ」を提示されても、どのテーマを選び、どのような期間・プロセスで取組み、成果を出していくのかを計画して取り組んでいくことは難しいのではないかと。

計画～取組みを河川レンジャーだけに委ねて成果を出すまでには時間がかかる。

⇒計画～取組みを河川レンジャーだけに委ねられているのは、「自由度」が高すぎ、時間がかかる。相談できる場があれば、計画～成果を出すまでの期間が短くなるのではないかと。

○新任や2年目の河川レンジャーが、先輩河川レンジャーの活動に関わりながら、その手法のノウハウを学ぶなどしていくことも良いのではないかと。

○河川レンジャーが個人でという活動の考え方だけではなく、河川レンジャー同士が連携して取り組んでいくことも良いのではないかと。

(2) 河川レンジャー活動に対する支援について

○提示されている住民ニーズに対する取組みを行うには、支援体制を整える必要がある。

⇒一定の河川に関する知識も必要。知識を学ぶ場が欲しい。

⇒河川事務所担当や支援室も年間活動立案時や活動経過の中でバックアップしながら、より具体的なプロセスを歩み、成果へとつながっていく取組みにしていく。（コーチング）

⇒河川事務所もバックアップできることはしていきたいと考えている。年間活動計画の計画段階で打合せを行うなどし、確認しあっていければよい。[河川事務所]

⇒河川レンジャー、河川事務所が同じ方向（地域ニーズに対する成果目標）を見据えて取り組んでいくことが大事である。[河川事務所]

(3) 地域ニーズに対して河川レンジャーで応えられること

○河川レンジャー活動を通じて、今後どのように地域住民が河川に関わっていくのかという視点で取り組んできている。その中で、

①次年度は、野洲川放水路 40 周年を迎えることもあり、今年度から活動対象の幅を広げべく、学区の住民組織等の方々が野洲川に関わる取組みを展開していこうと動いている。次年度の活動計画には、こちらを重点に立案したいと考えている。

②河川事務所の河川環境課と意見交換した中で、野洲川の中州親水公園（守山市占用）が地元要望から整備されたが、利用のルール（禁止行為）等から日常的な利用者が少ない課題がある。

以上を踏まえながら、地域ニーズと絡めて取り組んでいければと考えている。

例えば、「利用のルールに基づいた公園利用の機会と併せて河川清掃や草刈の実施」「公募伐採と併せて地域で原木しいたけの栽培、環境学習で原木しいたけの栽培」など。

○守山市域で河川清掃活動を行っている地域（企業や地域住民の方々）と行政（守山市・河川事務所）を繋いだ河川清掃活動を継続し、地域と行政の関係および規模の拡大を進めていきたい。

○守山市の私立中学校のサイテック部と河川環境課をつなぎ、取り組んでいる野洲川河口部のモニタリング調査（ヨシ帯面積測量・生物層調査・ヤナギの繁茂抑制実験）の継続支援を行うと共に、さらに地域ニーズの要素を盛り込んで進めていこうと考えている。

○瀬田川で活動する各大学のボート部の学生をつなぎ、繁茂する水草の除去活動に結び付けようと取り組んできたが、除去にかかる労力や練習時間に影響するなどの意見が多く、実施までにはたどり着けなかった。そこで、まずは取り組みやすい河川清掃から始めていこうと考えている。学生間をつなぎ、河川清掃を実施するノウハウは、名古屋の大学間で実施している事例を聞いたことから、それを参考に取り組んでいきたい。

⇒水草の除去については、一度各大学が集まって、水草に対しての意見交換を行う場を設けてみてはどうか。多様な意見を交換することで、除去のメリットがデメリットを上回る共通認識を得られ、活動実施につながる可能性がある。[河川事務所]

⇒瀬田川で特定外来種「オオバナミズキンバイ」の一斉除去活動を国際学生ボランティア協会（IVUSA）と滋賀県・河川事務所と連携しながら実施しているが、実施時期が秋季であり、すでに繁茂しきっている時期であることから、適切な駆除の実施時期としては逸している課題がある。

そこで別途、年間 8 回実施されている「瀬田川流域クリーン作戦」（水面からの水草・ゴミの除去）実施時に、サポートとして「オオバナミズキンバイ」の水際（陸域）からの駆除活動を、春季の芽吹く時期に併せて連携して取り組めないか河川事務所内（河川環境課・占用調整課・瀬田川出張所）で検討している。

については、この話しが動き出せば、河川レンジャーがつないだ各大学のボート部の方々が駆除作業の主体として取り組んでいってはどうかと考えている。[河川事務所]

以上

平成 30 年度 河川レンジャー年間活動報告

- 根木山河川レンジャー P. 1
- 北村河川レンジャー P. 5
- 水上河川レンジャー P. 11
- 近藤河川レンジャー P. 17

テーマ： 野洲川の川守りをつなぐ

■年間活動報告書 要約版

氏名： 根木山 恒平

作成日： 2019年 3月10日

	年間活動計画	活動結果
背景と昨年度の課題	<p>野洲川下流部のうち守山市中洲地区では、地域の長年の要望を受けて、守山市と国交省により野洲川中州親水公園が整備され、水辺へのアプローチや駐車場が完成しました。また、管理用道路を活用した自転車道も整備され、今後、地域外部から来訪者が増えることが期待されます。他方、地域（中州学区）では、守山市地域まるごと活性化プランにもとづく住民運動「野洲川プロジェクト」が活動最終年度を迎えます。また、親水公園の除草作業を担う住民チーム「あめんぼうサポート隊」が発足します。住民有志グループ「なかす野洲川たんけん隊」は活動4年目に入り、ひきつづき住民主体の運営体制へシフトしていきます。来年（2019年）には、野洲川放水路通水40周年を迎え、守山市、国交省でも記念事業を計画されるようです。</p> <p>この地域において、野洲川を地域資源としてまちづくりに活かす取り組みが活性化し、野洲川の利活用と維持管理が住民によって持続的に担える仕組みづくりが求められています。特に、地域住民が、親水公園の利活用について、そのポテンシャルに気づき、新たな魅力を発揮する利活用のアイデア、活動が生まれることが期待されます。</p>	
実施目的	<p>（ビジョン） 野洲川下流部（守山市中洲地区）において、野洲川中州親水公園をはじめとした野洲川での活動が活発化し、利活用と維持管理に住民が主体的に関わりつづけている状況を目指します。</p> <p>（ミッション） 野洲川周辺の住民や利用者に出会い、話を聞き、ニーズを把握し、関係構築する。住民のニーズにもとづく、野洲川を利活用した住民主体の活動をオーナガイズする。河川管理者や守山市と課題を共有し、住民との間のつなぎ役を果たします。</p>	
今年度の成果目標と結果	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA~F（Aが達成度最大、Fが達成度最低）の6段階で自己評価して下さい。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p>	
	<p>1. 地域住民有志による野洲川での子どもたちの活動（こどもクラブ）を支援し、住民主体の持続可能な活動体制づくりを目指します（1年後）。</p>	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>住民主体の運営にシフトできた。行政（課題）とのつなぎには河Rの介入が必要。メンバー数：子32名（前年比+10）、大人24名（+2）。</p>
	<p>2. 守山市中州学区の住民による野洲川での活動を支援します。住民に対するヒアリング等を行い、ニーズを把握するとともに、関係構築をはかり、2019年の野洲川放水路通水40周年を契機とした住民活動の活性化に寄与できるよう活動します。</p>	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>5つの自治会長を含めた住民ヒアリングを通して、地域の状況把握、関係構築を進められ、今後にむけたシーズを把握できた。</p>
	<p>3. 河川管理者による野洲川の樹木伐採（公募）に対し、応募しようとする住民とのつなぎ役を果たします。</p>	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>昨年度につづきこどもクラブで樹木伐採を支援できた。また、河川管理者による休日試行の実施に関与して、8組の伐採参加者との交流会の進行役を務め、参加者ニーズを聴取できた。</p>

	年間活動計画	活動結果
	4. 野洲川における住民と行政が連携した清掃活動に対し、河川レンジャーとして関与し、支援します。	A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F 10/20に開催された「野洲川クリーン作戦」(水上R 担当)にこどもクラブの参加をつなぐことができ、住民14名が参加してくれた。
	※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒	「野洲川放水路40周年」の周知のため「淡海の川づくりフォーラム」(滋賀県主催)に参加できた。河川レンジャー=住民と行政のつなぎ役としての活動を認知いただけた(「マザーレイクフォーラム賞」受賞)。
	※1年間を通して、自ら評価できる点やPRしたい点などを記載して下さい。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・野洲川中洲親水公園を利用した子どもの体験学習を行う住民グループの運営が軌道に乗り、樹木伐採や、清掃活動などの活動への参加をつなぐことができるようになった。 ・守山市中洲学区住民との関係構築が進み、今後の住民活動の具現化に向けシーズを得た。 ・野洲川の樹木伐採(公募)について、休日試行にて参加者の声を聴取でき、参加者間の連絡・協力のための支援が必要であることがわかった。 ・淡海の川づくりフォーラムにて、「野洲川放水路40周年」をアピールするとともに、「住民と行政のつなぎ役としての河川レンジャーの役割」についてもアピールできた。 	
活動内容の計画と結果	※活動計画で掲げた活動内容に対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。	
	① 住民有志による野洲川での子どもたちの活動(こどもクラブ) <ul style="list-style-type: none"> ・運営サポート ・資金調達支援(守山市助成金) ・実際の活動の運営支援(5~12月) 	年度当初に、住民メンバーによる運営会議を支援し、住民メンバー主体で、年間計画と役割分担をし、それに基づき、活動の企画実施を行っている。資金調達についても、住民メンバーが公開プレゼンに参加してくれて獲得できた。新しいメンバーが増えて、混乱もある。
	② 守山市中洲学区の住民による野洲川での活動に同伴し、支援し、関係構築します。 <ul style="list-style-type: none"> ・中洲学区「野洲川プロジェクト」への参加・協力 ・住民組織「あめんぼうサポート隊」との関係構築 ・中洲学区住民を対象としたヒアリング(8~9月) ・2019年6月の40周年記念事業を契機とした活動(企画)の支援 ・炊き出しやマイ防災マップ等を念頭に防災活動としての住民活動の可能性の打診 	住民ヒアリングを行うことで、5つの自治会ごとの特性や、状況、考え方の違いが把握できた。また、中洲学区の生活者の立場からの声も聴取できた。野洲川(中洲親水公園)の利用、活性化については、中洲学区住民の利用に限定せずに、守山市内、ひいては市外の利用も含めた取り組みを視野にいたい。守山市による「まるごと活性化」の施策について、「野洲川プロジェクト」は次年度も継続されることになった。「カヤック利用」の実現に向けて支援が必要である。また、親水公園の利用が少ないという課題意識について学区長とも確認でき、河川レンジャーとして積極的に関与することについて了承いただいた。
	③ 河川管理者による野洲川の樹木伐採(公募) <ul style="list-style-type: none"> ・こどもクラブによる樹木伐採の支援 ・その他、河川管理者と課題を共有し、必要なことでできることを支援 	こどもクラブによる「樹木伐採」に加えて、河川管理者との要請にもとづき、休日試行(イベント)の運営に協力し、参加者の伐採作業を支援するとともに、参加者交流会の進行役をつとめ、参加者からのご意見をうかがうことができ、河川管理者とも課題を共有できた。

	年間活動計画	活動結果
	<p>④ 野洲川における住民と行政が連携した清掃活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のレンジャーとも情報共有をはかり、必要な協力、支援を行う。 <p>※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒</p>	<p>水上レンジャーが中心になって琵琶湖河川事務所と地元企業との連携をされた取り組みに、伴走し、水上レンジャー、河川環境課との間でも情報共有、意見交換ができた。</p> <p>滋賀県が主催され、主に滋賀県内の川づくりに関わる住民や団体、行政関係者が多く集まる「淡海の川づくりフォーラム」に参加し、「野洲川放水路 40 周年」をアピールするとともに、これまでの活動について、住民と行政とのつなぎという点を強調して紹介し、意見交換した。</p>
活動対象に対する関係づくりの結果	<p>※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載してください。</p> <p>① 住民有志（主に、子どものいる世帯や、子どもの活動の運営に関心のある方） ⇒野洲川をフィールドにした子どもたちの活動を、住民有志が持続的に運営できるようにサポート</p> <p>② 守山市中洲学区の住民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中洲学区「野洲川プロジェクト」メンバー ・住民組織「あめんぼうサポート隊」メンバー ・中洲学区住民（学区夏祭りでの出会いを想定） <p>⇒出会い、話をうかがい、ニーズを把握し、関係構築をはかる</p> <p>③ 樹木伐採に関心のある住民 ⇒樹木伐採（公募）に応募しようという住民のサポート</p> <p>④ 河川管理者、守山市、中洲学区、中洲子ども園 etc. ⇒各担当者と接点を持ち、情報共有し、連絡がとれるような協力関係をつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中洲小学校などに広報し、中洲学区住民 2 組を含む新しいメンバーを増やすことができた。 ・前年度からのメンバーに対して、主体的に活動を企画・運営するのをサポートした。 ・野洲川プロジェクトの運営会議にオブザーバー参加し、情報共有、意見交換している。 ・中洲会館を通して、あめんぼうサポート隊の情報共有をはかっている。 ・中洲学区住民 7 名に対して、ヒアリングを実施し、野洲川への思いや、利用、活性化方策についてご意見をうかがった。 ・ヒアリングをきっかけ住民による地域活性化活動に伴走し、学区長や、守山市役所との意見交換を進めている。 ・こどもクラブによる伐採した樹木をつかった「まな板」づくりや、伐採活動をサポートしている。 ・公募伐採に応募された住民 8 組が参加された休日試行にて意見聴取をした。 ・野洲川出張所、管理課、河川環境課、調査課とそれぞれ、情報交換、意見交換を行っている。 ・中洲会館、中洲小学校とも情報共有、意見交換を行っている。また、中洲学区長が主に提唱され実現した「守山市環境学習都市宣言」（2017 年 11 月）の施策化について担当課と意見交換している。
今後の課題	<p>※ 1 年間の活動を通して、今後継続的に取組んでいきたい事柄、河川レンジャーとして高めていきたい能力などについて記載してください。</p> <p>来年は、野洲川放水路 40 周年を迎えるため、それを契機に、住民の野洲川での活動への参加を促進するための方策を立て、取り組みたいと考えている。中洲学区住民のヒアリングから、野洲川の活動については、中洲学区住民にこだわらず、守山市内、ひいては、市外の住民の利用も視野に検討したい。</p> <p>（具体的な想定されるシーズ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇野洲川中洲親水公園の水辺を活用したカヤック体験イベント ◇野洲川中洲親水公園の芝生の広場を利用したレクリエーション活動で、清掃活動や除草作業などもあわせて実施する仕組みづくり ◇野洲川の樹木伐採（公募）参加者間の連絡、連携のための支援 	

年間活動計画													
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) こどもクラブ		運営 会議	運営 会議 資金 調達	救急 救命 講習	川遊 び	川遊 び	樹木 活用 活動	活動	振り 返り	発表			成果 報告
(2) 中州学区		会議 参加		会議 参加		ヒア リング	ヒア リング	まと め	関係 構築 野鳥 観察	関係 構築	関係 構築 タコ あげ	40 周年 記念 行事 準備	40 周年 記念 行事 準備
(3) 樹木伐採									情報 共有	応募	伐採 作業	伐採 作業	伐採 作業
(4) 清掃活動		情報 共有		協力	清掃 活動		協力	清掃 活動					

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、活動実績を記載してください。

活動結果													
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) こどもクラブ		運営 会議	運営 会議	資金 調達 救急 救命 講習	川遊 び	川遊 び		川遊 び	発表 準備 上流 視察	発表		意見 交換	
(2) 中州学区		会議 参加	野洲 川学 習	会議 参加		ヒア リング 依 頼	ヒア リング	ヒア リング	ヒア リング	住 民 & 学 区 長 意 見 交 換		活 動 参 加 会 議 参 加	
(3) 樹木伐採							樹木 活用	樹木 活用	公募 伐採 応募	準備	樹木 伐採 & 打 合 せ	樹木 伐採 & 休 日 試 行	樹木 伐採
(4) 清掃活動		情報 共有		打合 せ	清掃 活動 中 止		打合 せ	清掃 活動					

テーマ： 河川にまつわる「地域の記憶掘り起こし」と会話の場の創出

■年間活動報告書 要約版

氏名： 北村 美香

作成日： 2019年 3月 5日

	年間活動計画	活動結果
背景と昨年度の課題	<p>これまでの活動を継続し、河川と先人の関わってきた経験や知恵の集積が行われ、地域の歴史のひとつとして生活と共にあったころの河川情報に注目する。まずは住民と住民、その後住民と行政が話をするひとつの話題として活動により得られた情報を活用し、今後のあり方について意見交換ができる関係構築のきっかけづくりを目指す。双方のコミュニケーションの機会と場を増やすことで、河川整備をテーマとした地域づくりへと転換していきたい。</p>	
実施目的	<p>(ビジョン) 古写真収集やヒアリングより得られた成果や、個人のポテンシャルを活用できるものの中から、連携できるものを模索していく。また、幅広い層と河川について話す機会を創出することで、河川整備をともに議論できる関係構築を目指す。</p> <p>(ミッション) 地域の方と一緒に活動することで、長期的な活動の継続を目指し、そのための支援をしていく。また、住民と行政とが会話をするきっかけづくりの場を創出し、これまでの河川レンジャーの活動成果も活用して双方のコミュニケーションの機会と場を増やしていく。</p>	
今年度の成果目標と結果	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA~F (Aが達成度最大、Fが達成度最低) の6段階で自己評価して下さい。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p> <p>1. 河川に関する記憶を掘り起こしと、住民・行政の情報共有</p>	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>5月に写真展を開催し、多くの方にご来場いただけました。その際に、たくさんの方からお話を聞くことができ、1379名が来場いただき、26件の河川等に関するご意見、48件の展示写真にまつわるエピソード、15名の体験談録音を実施することができた。該当地区の写真の提供をいただくことにもつながったため、これまでの活動成果をさらに発展させることができた。</p> <p>アマサイの動画を活用して、河川管理者の取り組む事業を紹介することもでき、過去の記憶と現在の取り組みに接点を持たし、情報の共有や意見を聞く場を設定することができた。</p>
	<p>2. 河川に対する興味関心を高めることを目指し、各団体の活動を支援していく</p>	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>「水辺の匠」への出店、各活動団体の現場視察等を実施し、情報交換や活動支援に向けての準備は日常からできた。具体的な取り組みとしては、個々の団体がイベント等で活動する際に、子どもたちに分かりやすく伝えるための工夫や、河川に興味を持ってもらえるような仕掛け</p>

	年間活動計画	活動結果
		<p>作りについてのアドバイスを行うことができた。</p> <p>これまでの活動に関心を持っていただいた田上子どもクラブさんから、3/16に開催予定の2018年度活動報告会にて、河川と地域との付き合い方や、古写真収集およびヒアリングについて紹介して欲しいと依頼をいただけ、地域での活動周知、活動支援もできた。</p>
	3. 河川レンジャー活動の認知度向上	<p>A · B · © · D · E · F</p> <p>写真展会場で河川レンジャーについての紹介をおこない、昨年度作成した冊子も多く配布することができた。</p> <p>また、レンジャーレポートの執筆や京都新聞社の地域取材に2回協力し、記者の方が取材される際のコーディネートで河川レンジャーとして実施することができた。</p> <p>2月初めに滋賀県主催の事業「淡海の川づくりフォーラム」へ今年度も参加し、学習ツールの作成をメインに発表した結果、県河港・砂防協会さんより「山紫水明賞」をいただくことができた。</p>
	4. 治水利水に関する学習ツールの開発、作成	<p>Ⓐ · B · C · D · E · F</p> <p>河川事務所工務課のご協力のもと、アマサイに関する学習ツールを。砂防事業に関する学習ツールを県の砂防協会等のご協力のもと現在作成中である。アマサイについては、住民の方の意見等も反映させるために、簡易ではあるがアンケートも実施することができた。</p> <p>砂防冊子は完成・印刷発注済みで、納品後は学校および生涯学習施設、県流域政策局と一緒に県内開所へ配布する予定である。また、3/16に砂防事業の舞台でもある田上で、冊子のご紹介をするとともに、地域の方へ配布する予定である。</p>

	年間活動計画	活動結果
	<p>※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒</p>	<p>写真展を撮影箇所近くで開催したことにより、一番伝えたかった地域の方と一緒に、新たな展開ができることになったのは一番の成果だと実感している。</p> <p>また、「川づくりフォーラム」での受賞をきっかけに、県の関係部署から砂防冊子の普及・活用に協力していただけることになり、予想以上に広範囲での展開が可能となった。</p>
	<p>※1年間を通して、自ら評価できる点やPRしたい点などを記載して下さい。</p> <p>地域や関連団体の方とのつながりが、これまで以上に持てたことは評価できる。情報発信の成果として、京都新聞社の記者との連携も今後の展開に期待ができると考えている。作成した学習ツールを通じて、行政と地域との関係をつなぐきっかけが外部評価として県内で出てきたことは、今年度の大きな成果の一つだと考えている。</p>	
活動内容の計画と結果	<p>※活動計画で掲げた活動内容に対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。</p>	
	<p>① 河川に関する記憶を掘り起こしと、住民・行政の情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 得られた情報を集約して、水のめぐみ館エリアでの情報発信または展示 地域における写真を活用したヒアリング活動の普及と支援 県内施設などさまざまな場で写真展を通じた会話の場の創出 	<p>ほぼ計画通りに実施できている。(詳細は、今年度の成果目標とこれまでの達成度1を参照)。</p>
	<p>② 河川に対する興味関心を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動成果を伝える広報ツール作成 関連団体の活動支援およびネットワークの構築 	<p>ほぼ計画通りに実施できている。(詳細は、今年度の成果目標とこれまでの達成度2を参照)。</p> <p>年度内に、今年度の新規収集写真や体験談などをまとめた広報ツールとして、前年同様冊子を作成予定である。</p>
	<p>③ 河川レンジャー活動の認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動成果を伝える広報ツールの活用 活動成果を発信する場への参加 	<p>ほぼ計画通りに実施できている。(詳細は、今年度の成果目標とこれまでの達成度3を参照)。</p> <p>②にも記載したが、広報ツールとして前年同様冊子を作成予定である。</p>
	<p>④ 治水利水について興味を持ってもらうための学習ツール作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 砂防、河川、天ヶ瀬ダムについての教材開発と利活用 	<p>ほぼ計画通りに実施できている。(詳細は、今年度の成果目標とこれまでの達成度4を参照)。</p> <p>砂防事業学習冊子は完成。アマサイすごろくについては、年度内完成に向けて調整中である。</p> <p>完成した砂防学習冊子は、近隣小学校および図書館、生涯学習施設への配布や、周知イベント設定を年度内に予定している。</p>

	年間活動計画	活動結果
	※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒	ほぼ計画通り実施中である。
活動対象に対する関係づくりの結果	※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載してください。	
	① 住民(近隣住民で年代を問わない)、河川事務所職員、河川レンジャー	写真展に、展示写真の撮影箇所近隣の外畑地区、内畑地区、曾束地区の方が多く来場されたため、より具体的な話が聞けた。また、終了後の活動にもこの地区の方が加わって下さり、地域住民との関係づくりには大きな一歩を出せたと考えている。 河川事務所職員の方とは、アマサイの学習ツール開発を中心に、工務課、調査課、管理課の方にご協力いただくことができた。
	② 住民(近隣住民で年代を問わない)、関連団体	コハクチョウを愛する会さん、釣り人による清掃活動さん、滋賀県遊漁船協会さん、レトロカフェさんをはじめとする関連活動団体の方と、これまで以上にネットワークを構築することや意見交換を行うことができた。 行政では、滋賀県、大津市、宇治市とのつながりもでき、今後の活動に活用していきたい。
	③ 住民(子どもたちやその家族が中心)	毎月ウォーターステーション琵琶の来館者向けに実施している、河川にまつわる体験プログラムの参加者の方と、日常的な会話から、今後の河川管理にまつわるような会話までおこなう機会を持つことができた。地味ではあるが、河川レンジャーとして一番大事な活動であると考えているため、今後も継続させていきたい。
	④ 住民(近隣住民で年代を問わない)、河川事務所職員	河川事務所職員の方とは、アマサイの学習ツール開発を中心に、工務課、調査課の方に別途ご相談やご協力いただくことができた。
今後の課題	<p>※ 1年間の活動を通して、今後継続的に取り組んでいきたい事柄、河川レンジャーとして高めていきたい能力などについて記載してください。</p> <p>河川レンジャーとしての活動目的や、琵琶湖河川事務所の河川管理者としての課題や事情は当然あるが、あくまで地域のご協力やご理解、関連活動団体との連携があってこそだと、今年度程強く実感したことはない。</p> <p>これまでの活動を継続しつつ、河川管理者の諸課題や地域の想い、河川レンジャーとしての活動テーマを3者がより分かりやすく、可視化していくことが我々河川レンジャーには求められるスキルではないかと考える。</p>	

年間活動計画												
工程計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ヒアリングおよび写真収集	常時活動 宇治川ライン調査											
会話の場の創出	びわこ池田記念墓地公園 で写真展開催 WSB写真展開催 過去の成果を活用した取組み(時期は目安)											
関連団体の活動支援	常時活動(情報を収集しつつ、機会があれば参加)											
治水利水について興味を持ってもらうための学習ツール作成	ツール作成に向けて情報収集 ツール案作成と検討 ツール発表会											
活動周知活動	成果冊子作成 川づくりフォーラム参加 子どもや家族を中心に、WSBにて周知と河川への興味関心を目指した取組みを月1度程度開催											

年間活動結果														
工程計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
ヒアリングおよび写真収集	常時活動													→
		宇治川ライン調査												
会話の場の創出	4/28-5/6 びわこ池田記念墓地公園で写真展開催								WSB写真展開催					
				活動成果を活用したツール作成、レトロカフェへの設置					11月以降					
関連団体の活動支援	常時活動（情報を収集しつつ、機会があれば参加）													→
		● フィッシングスクール		● 7/22 水辺の匠				● 一斉清掃					※他、多数あり	
治水利水について興味を持ってもらうための学習ツール作成			ツール作成に向けて情報収集				ツール案作成と検討							
			● 6/7 事務所打合せ				● 10/22 事務所打合せ					● 砂防冊子完成	→ スゴロク作成中	
活動周知活動													→ 成果冊子作成	
			● 6/17	● 8/12	● 10/27						● 2/3 川づくりフォーラム参加	● 3/16 砂防冊子発表会		
	子どもや家族を中心に、WSBにて周知と河川への興味関心を目指した取り組みを開催													

テーマ： 住民と行政がともに考える川づくり

■年間活動報告書 要約版

氏名： 水上 幸夫

作成日： 2019年3月10日

	年間活動計画	活動結果
背景と昨年度の課題	<p>私は、川は住民の宝であり、できるだけ多くの人々に「川に関心を持ってもらい」「川に直接ふれてもらい」「川のことを自ら考えてもらう」等の行動をしてもらえるような「住民参加の川づくり」の取り組みを進めるべきだと思っている。そのためには、行政（河川管理者）と住民がともに考える川づくりを進めることが重要であると考えている。</p>	
実施目的	<p>(ビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 野洲川が多くの人の活動場所となる。 ② 住民が川づくりに参加できるような仕組みができる。 ③ 住民と行政がともに考える川づくりの仕組みができる。 ④ 最終的には住民と行政が連携した住民参加の川づくりが実現する。 <p>(ミッション)</p> <p>サブテーマとして3つのテーマで活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域住民参加の川づくり ② 企業参加の川づくり ③ 地元中学校参加の川づくり 	
今年度の成果目標と結果	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA~F（Aが達成度最大、Fが達成度最低）の6段階で自己評価して下さい。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p>	
	1. 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>昨年度ヒアリングした企業に活動を理解していただき、行政・企業・地域住民がともに活動する野洲川河川清掃を実施する事ができた。</p>
	2. 地元中学校参加の川づくり	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>立命館守山中学校の野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査については YRP（意見交換会）を開催し行政と立命館守山中学校の思いをつないだモニタリング調査が実施できた。</p>
	※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒	特にありません

	年間活動計画	活動結果
	<p>※1年間を通して、自ら評価できる点やPRしたい点などを記載して下さい。</p> <p>CSR 活動による企業参加の川づくりの活動は野洲川清掃活動を通じて企業との信頼関係づくりができ、企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくりに向けて来年度は更なる飛躍ができる感触を得た。</p>	
活動内容の計画と結果	<p>※活動計画で掲げた活動内容に対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。</p> <p>① 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民と行政そして企業がともに活動する川づくり活動計画（春季） （川を守る編） ・住民と行政そして企業がともに活動する川づくり活動計画（野洲川河川清掃 秋季） （川を守る、川を利用する、川から守る編） <p>(1) 住民と行政そして企業がともに活動する川づくり活動計画（野洲川河川清掃 春季）</p> <p>行政、企業との調整ができ、ほぼ活動計画通りの野洲川河川清掃を実施できるように進めたが、今年は命に関わる暑さで、全国各地で熱中症になる人もたくさんおられ、各地で行事も中止になっているため今年の河川愛護月間中の河川清掃は中止して秋に延期する事とした。</p> <p>(2) 住民と行政そして企業がともに活動する川づくり活動計画（野洲川河川清掃 秋季）</p> <p>～川を守る、川を利用する、川から守る～</p> <p>野洲川沿川の企業が実施している CSR 活動（河川清掃）を行政（国、自治体）、企業、住民と繋ぐ活動から始めた。</p> <p>実施概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実施日時 平成 30 年 10 月 20 日（土） 9 時～12 時 2) 参加者・・・90 名 （株）イマック、なかす野洲川たんけん隊、地元自治会、琵琶湖河川事務所、守山市 3) 実施項目 第 1 部 河川清掃 <ul style="list-style-type: none"> ・時間 : 9 時～10 時 ・清掃場所 <ul style="list-style-type: none"> ①野洲川右岸 1.8k 付近～下流 琵琶湖河川事務所 ②野洲川親水公園 1.8k 付近～下流 （株）イマック、なかす野洲川たんけん隊、地元自治会、守山市、琵琶湖河川事務所、河川レンジャー 	

	年間活動計画	活動結果
		<p>第2部 川の防災イベント (野洲川通水40周年記念プレイベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間 : 10時～11時15分 ・実施内容 <ul style="list-style-type: none"> ①土のう積み体験 土のうづくり、積み土のう工 ②防災かまどによる非常炊き出し体験 ③水生生物調査 <p>第3部 防災かまどを利用した交流会 (自由参加)</p> <p>活動成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業、地域住民が川づくりに参加できるようなきっかけづくりが出来た <p>計画していたが実施できなかった事</p> <ul style="list-style-type: none"> ①立命館守山中学校が参加できなかった。 ②交流会での行政と住民の繋ぎ(コーディネート)が不十分だった
	<p>② 地元中学校参加の川づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政主体から住民(立命館守山中学校)が主体的に活動し、それが継続するようにコーディネートする。 ・立命館守山中学校と琵琶湖河川事務所の思いをつなぐ。 ・立命館守山中学校と行政(琵琶湖河川事務所)との意見交換会(YRP)により、お互いの思いを聴き、新たな活動を模索する。 ・調査項目にヤナギの抑制実験を追加し、その調査結果の発表の場として今年度は新たに日本ストックホルム青少年水大賞へのエントリーを行う。 ・日本ストックホルム青少年水大賞へのエントリーにあたっては、琵琶湖河川事務所と連携してモニタリング調査及び調査成果作成について支援する。 	<p>①立命館守山中学校の野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査についてはYRP(意見交換会)を開催し行政と立命館守山中学校の思いをつないだモニタリング調査が実施できた。</p> <p>②また、立命館守山中学校が主体的に活動し、それが継続するようにコーディネートした。</p> <p>③日本ストックホルム青少年水大賞へのエントリーについては調査項目に新たにヤナギの木の抑制実験を追加し、その調査結果の発表の場としてエントリーを目指したが実現できなかった。 今後の課題として、来年度も引き続きモニタリング調査を続けていき琵琶湖河川事務所と連携してモニタリング調査及び調査成果作成について支援する。</p>
	<p>※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒</p>	<p>特にありません</p>

	年間活動計画	活動結果
活動対象に対する関係づくりの結果	※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりができた場合には、そのことも記載してください。	
	① 企業	野洲川清掃活動を通じて担当者の方との信頼関係づくりができた。 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくりに向けて来年度は更なる飛躍ができる感触を得た。
	② 地域住民	野洲川清掃活動に積極的に参加して頂いた。 来年度はより多くの方に野洲川清掃活動に参加して頂ける気運ができた。
	③ 管理者（琵琶湖河川事務所）	河川レンジャー活動についてともに考え活動する関係づくりができた。
	④ 立命館守山中学校	顧問の先生が変わったが引き続き野洲川ヨシ帯モニタリング調査を通じて継続した信頼関係ができた。
今後の課題	<p>※ 1年間の活動を通して、今後継続的に取組んでいきたい事柄、河川レンジャーとして高めていきたい能力などについて記載してください。</p> <p>(1) 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり 野洲川河川清掃活動の継続 参加者からの感想 ① 清掃活動の範囲や時間を増やしたほうがいい ② もっと参加者があればよい、水の中のゴミも回収した方がいいのでは、防災体験などでもきて良かった ③ 非常に良い取組みだった。来年度も続けると良い 昨年実施した時の参加者の感想を踏まえるとともに今年度事前に「行政と住民の皆さんの思い」を聴き計画を作成しバージョンアップした活動を進めていく</p> <p>(2) 地元中学校参加の川づくり 野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査の継続 ① 来年度の活動について3月下旬 YRP（意見交換会）開催。 ② YRP（3月下旬）で立命館守山中学校の思いをヒアリングして今まで実施してきたモニタリング調査を継続するとともにさらなるバージョンアップした活動を進めていく。</p>	

工程計画	年間活動計画												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
野洲川清掃活動	ヒ ア リ ン グ	活 動 計 画 作 成	関 係 者 と 最 終 調 整	清 掃 活 動 実 施	ヒ ア リ ン グ	ヒ ア リ ン グ	関 係 者 と 最 終 調 整	清 掃 活 動 実 施			と り ま と め	考 察	
野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリング調査	ヒ ア リ ン グ	春 季 調 査 実 施	YRP 開 催	YRP 開 催			秋 季 調 査 実 施		YRP 開 催	YRP 開 催	成 果 発 表		

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、活動実績を記載してください。

		年間活動計画											
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	野洲川清掃活動	ヒ ア リ ン グ	活 動 計 画 作 成	関 係 者 と 最 終 調 整	清 掃 活 動 酷 暑 の た め 延 期	ヒ ア リ ン グ	ヒ ア リ ン グ	最 終 調 整 清 掃 活 動 実 施	ヒ ア リ ン グ		と り ま と め	考 察	平 成 31 年 度 計 画 検 討
	野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリング調査	ヒ ア リ ン グ	春 季 調 査 実 施			YRP 開 催	YRP 開 催	YRP 開 催	秋 季 調 査 実 施			成 果 発 表	YRP 開 催 H31 活 動 計 画 検 討

テーマ： 瀬田川流域の水草環境改善のための河川利用者間の交流の場の構築

■年間活動報告書 要約版

氏名： 近藤 啓太

作成日： 2019年 03月11日

	年間活動計画	活動結果
背景と昨年度の課題	<p>私は大学のボート部で瀬田川を毎日利用しているが、瀬田川は季節によって水草が繁茂し、水上での活動が困難となることがある。さらに、これによって景観も損なわれているので水草の除去活動を進めていきたいが現時点では瀬田川利用者、利用団体の連携がうまくとれている状況にはないためまずは交流の機会をつくり、大規模で効率的な水草除去活動などの一体となった大規模活動ができるつながりを作る。</p>	
実施目的	<p>(ビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> 瀬田川流域の利用者、利用団体が相互的に交流を深め、瀬田川流域の環境をよりよくしていく活動にとともにとりくめるような関係性を構築する。 瀬田川利用者が自身にとってだけでなく、他者、他団体にとって居心地の良い瀬田川の姿がどのようなものであるかを概形でも認識する。 <p>(ミッション)</p> <ul style="list-style-type: none"> 始めにボート部、カヌー部などの学生間でのつながりを作り、意識、意見の共有をする。そののち、学生らと住民などがお互いを信頼できるように接触の場を作る。そのために、まずは私がヒアリングに出向き、利用者、利用方法を認識し、架け橋となる。 そのうえで、瀬田川で活動している人同士の交流の場をまずは瀬田川に求めているものが近い人たちの間で設定する。そこで交流の場の設定に仕方を学び、複数団体の交流の場の構築につなげる。 複数団体の交流を何度か重ねたのち、水草除去など瀬田川流域の環境改善について各団体が考えていることの意見交換会を開く。 	
今年度の成果目標と結果	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA~F (Aが達成度最大、Fが達成度最低) の6段階で自己評価して下さい。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p>	
	1. 瀬田川利用団体、利用者、そしてその意見の把握。	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>瀬田川でのヒアリングを行うことはできたが、それよりも他水域の方々へのヒアリングが重点的になってしまい、活動の基盤を見失ってしまった感があった。</p>
	2. 河川レンジャーという存在を各団体に認識してもらいたく。	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>ヒアリングを行う際に自身が河川レンジャーであることを名乗り、その説明も行ったためヒアリング対象の方々の中にその存在は認知していただけたと考える。</p>

	年間活動計画	活動結果
	3. 意見交換会の設定。	A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ <input type="checkbox"/> F 意見交換会の設定を行うことはできたが最終的な賛同を得ることができず、実施することができなかつたため。
	※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒	他水域の利用者への方々にヒアリングを多く行ったことで複数団体での協働がどのように企画されているか、実施されているかについての知見を深めることができた。
	※1年間を通して、自ら評価できる点やPRしたい点などを記載して下さい。 一年目で右も左もわからない中ではあったが、様々な団体へのヒアリングを行ったことで二年目の活動を少しでも円滑に進めることができそうではある。また、水草除去に関しての協働が頓挫したことで来年の活動計画をより現実的なものに修正することができた。	
活動内容の計画と結果	※活動計画で掲げた活動内容に対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。	
	① 瀬田川流域に拠点を構える大学ボート部へのヒアリング、交流会の企画などを通して複数団体がつながれる場を作るノウハウを蓄積し、カヌー部、流域住民の方々…へと範囲を拡大していく。	ボート部へのヒアリングに関しては多くの大学へ実施することができ、達成度は高かった。しかし、先述のとおり水草除去活動への賛同が得られず交流会などの活動が頓挫したためその次のステップに移行することができなかつた。
	② 私が河川レンジャーとしてヒアリングなどに出向き、自分がしようとしていること、瀬田川環境改善について求められていることなど互いの考えを交換する。	ヒアリングは多く行うことができた。他水域へのヒアリングも行い、その方々に瀬田川の現状などについて意見を求めるなどして内外から瀬田川を見つめなおすことができた。
	③ 過去に行われた意見交換会の実施内容、実施方法を確認し、1でのリストを参考にしながら交流会を開き、そののちに意見交換会を開く。	過去の意見交流会のことを調べるができなかつた。レンジャー事務所の方々にご協力をお願いして来年度にそうした作業を充実させたい。
	※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒	特にありません
活動対象に対する関係づくりの結果	※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりができた場合には、そのことも記載してください。	
	① 瀬田川利用者及び管理者など	瀬田川に拠点を置いている各ボート部とは以前あまり連絡を取っていなかつたがこの一年を通して連絡をとる機会が増え、来年度の活動につなげられるものとなつた。

	年間活動計画	活動結果
今後の課題	<p>※ 1年間の活動を通して、今後継続的に取組んでいきたい事柄、河川レンジャーとして高めていきたい能力などについて記載してください。</p> <p>瀬田川流域の大学ボート部へのヒアリングは行ったが、十分に行えたわけではないので来年度以降も継続していきたい。</p> <p>複数団体が気が滅入ることなく、進んで、気軽に参加できるようなイベントをまず提案しなければ賛同が得られず活動そのものが停滞してしまうことを痛感した。まずはそうした企画を考え、実行に移していくことを目標としたい。</p>	

工程計画	年間活動計画												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利用者の把握					-----			現地でのヒアリング			----->		
								-----		利用者のリストアップ			----->
レンジャーの認識					-----			利用者との意見交換			----->		
意見交換会設定												交流会 企画、実施	

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、活動実績を記載してください。

工程計画	活動結果											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者の把握				ヒアリング実施	ヒアリング実施	ヒアリング実施	ヒアリング実施	ヒアリング実施	ヒアリング実施	ヒアリング実施	ヒアリング実施	ヒアリング実施
レンジャーの認識				ヒアリングの際にレンジャーの紹介を実施	ヒアリングの際にレンジャーの紹介を実施	ヒアリングの際にレンジャーの紹介を実施	ヒアリングの際にレンジャーの紹介を実施	ヒアリングの際にレンジャーの紹介を実施	ヒアリングの際にレンジャーの紹介を実施	ヒアリングの際にレンジャーの紹介を実施	ヒアリングの際にレンジャーの紹介を実施	ヒアリングの際にレンジャーの紹介を実施
意見交換会設定									交流会の企画を開始、各団体に連絡を取り始める。		水草除去活動について賛同が得られず、交流会が頓挫。	

平成 31 年度 河川レンジャー年間活動計画 (案)

【暫定版】

■ 近藤河川レンジャー

(テーマ) 瀬田川流域の水草環境改善のための河川利用者間の交流の場の構築

氏名：近藤 啓太
作成日：2019年 3月 8日

背景と昨年度の課題	私は大学のボート部で瀬田川を毎日利用しているが、瀬田川は季節によって水草が繁茂し、水上での活動が困難となることがある。さらに、これによって景観も損なわれているので水草の除去活動を進めていきたいが現時点では瀬田川利用者、利用団体の連携がうまくとれていないためまずは交流の機会をつくる。昨年は水草除去を主に掲げていたが今年度はその基盤となる関係づくりに重点を置いて活動を進める。
実施目的	<p>(ビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬田川流域の利用者、利用団体が相互的に交流を深め、瀬田川流域の環境をよりよくしていく活動にともにとりくめるような関係性を構築する。 ・気軽に参加できるイベントを複数団体で行いことによって、水草除去などハードルが高く思われる作業にも参加してもらえるような環境づくりを行う。 <p>(ミッション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬田川のボート利用者間で意見交流会を開催し互いの関係づくりを促進する。 ・それぞれの活動に影響が出ない範囲で小規模のレースなどを行い、同じ河川を利用している仲間であるという認識を共有する。 ・そうした行為の積み重ねにより各団体間の協同関係を築き、冬季に大規模な清掃活動を行えるような関係に発展させる。
次年度の成果目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数団体での顔合わせ、意見交流会の開催 2. 複数団体を巻き込んだ小規模のレースなどの複数回開催 3. 冬季の清掃活動などの実施

内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 瀬田川を拠点にしているボート利用団体の代表者、賛同者を複数名集めて顔合わせと意見の交流を行う。 2. 各々の活動を損なわないようまずはボート競技という枠組みの中で複数団体が参加するレースなどを開催し、同じ瀬田川で活動している人たちがいること、一緒に活動することが気軽なものであることなどを認識していただく 3. 冬季など各団体が時間の取れる時期に共同で清掃活動を行う。
対象	瀬田川流域のボート、カヌー利用者

工程計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
顔合わせ、意見交流会	意見交流会の企画	ヒアリングに出向き、各大学ボート部に参加を持ちかけ。	交流会実施前に以前のものの確認を行う。		第一回意見交流会実施。 宮下教授への実績提示。	ボート部だけではなくカヌー部などにも活動の輪を広げる。	第二回意見交流会実施。		ボート、カヌー関係者による意見交流会企画		意見交流会実施。	
小規模活動展開		小規模な複数のボート部傘下によるレース実施。		5月に行ったものの第2回を実施。	第3回を実施							
清掃活動					日付、時間をそろえた清掃活動を各ボート部に実施。		瀬田川一清掃への参加人数増加		年末掃除として参加可能団体を募り、8月より大規模なものを企画、実施。			カヌー、ボートなど瀬田川に拠点を構えている団体による清掃活動を実施。

～今後の河川レンジャー活動の視点（河川管理者案）～

平成 31 年度以降の河川レンジャー活動の視点（案）

○河川レンジャーは、より大きく社会に貢献できるよう「河川管理者が取り組むことの難しい住民ニーズ」に関する活動を充実させ取り組む。

- ※ 1 : 河川レンジャー制度運営委員会は、この平成 31 年度以降の河川レンジャー活動の視点(案)により任期満了に伴う継続審査時、任期中の次年度以降の年間活動計画（案）審査時並びに新規河川レンジャー採用審査時の審議において評価を行う。
- ※ 2 : 平成 31 年度以降の河川レンジャー活動の視点（案）に基づく活動を確認できない場合は、河川レンジャー年間活動計画は承認しない。
- ※ 3 : 年間活動計画が承認できない場合は、任期中であっても河川レンジャーを継続することはできない。

「河川管理者が取り組むことの難しい住民ニーズ」
<p>野洲川の河道内樹木を伐採してほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 繁茂が著しくて増水の後、ビニールなどがゴミが引っかかって景観が悪い ➢ 繁茂が著しくて流れを阻害していないか ➢ 増水したときに溢れないか ➢ 利用したいのに水際に近づけない
<p>野洲川の高水敷の草を刈ってほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 繁茂が著しく景観が悪い ➢ 利用したいのに高水敷の草で水際に近づけない ➢ 花粉症なので早く刈ってほしい
<p>野洲川の河口部がの土砂を取ってほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 以前にくらべて河道に土砂がたまってきている。増水したときに溢れないか
<p>瀬田川の水草を刈ってほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 繁茂してゴミが引っかかって汚い ➢ 水面利用に支障がある（ボート・カヌーなど） ➢ 臭いがひどい
<p>瀬田川の外来種を駆除してほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 外来種（生物・植物）が増えて環境が悪化している
<p>(野洲川・瀬田川共通) ゴミを取ってほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 近くの川沿いにゴミ（生活・飲食・喫煙等）があつて汚い ➢ 大型ゴミが投棄されている ➢ 利用しようと思っても汚くて行けない
<p>(野洲川・瀬田川共通) 河川の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ ボート・カヌーが降ろしやすいように護岸に傾斜をつけたい ➢ 河川敷でバーベキューがしたい ➢ 河川敷でラジコンやドローンがしたい、していて危険では？ ➢ 草を刈るのでスポーツの練習に使いたい
<p>琵琶湖の水位が高い・低い</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 水位管理をどのように考えてしているのか解らない ➢ 大雨で水位が高くなっているのになぜ下げないのか ➢ 漁業や農業、生きものに影響は？

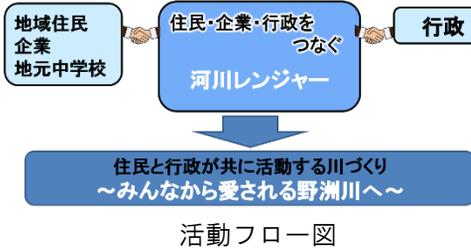
水上レンジャーの巻 琵琶湖河川レンジャー レポート

**住民と行政が共に考え
共に活動する川づくり**

住民の思いと行政の思いを繋ぎ「みんなから愛される野洲川へ」

野洲川河口部では、琵琶湖河川事務所と立命館守山中学校の生徒の皆さんと共にヨシ帯モニタリング調査を行っています。

また、昨年度から新たに守山市中州地区で地元企業のCSR活動と地域住民の方々と行政を繋ぐ活動を始めました。



河川レンジャーより

「住民と行政が共に考え、共に活動する川づくり」をテーマに行政と企業や地域住民の方々が別々に実施している野洲川の河川清掃活動を河川レンジャーが繋ぎました。

(活動概要)

第一部では、野洲川中州親水公園（あめんぼう）の上下流の河川清掃を行いました。

第二部では、野洲川中州親水公園の前の水辺で防災環境イベント（土のう積み体験、防災かまどによる非常炊き出し、水生生物調査）を実施しました。



土のう積み体験

防災かまどによる非常炊き出し体験



河川レンジャー

活動支援室

2019年1月発行

VOL. 36



①川を守る河川清掃②川から自分達の身を守る防災体験③川で遊ぶ水生生物調査を行政（琵琶湖河川事務所・守山市）地元企業の（株）イマツクの皆さん、地元自治会の方々、なかつ野洲川たんけん隊の皆さんと一緒にいった川づくり活動でした。

行政と住民が共に活動



参加者の皆さんからは「清掃活動の範囲や時間を増やしたほうがいい」「水の中のゴミも回収した方がいいのでは」「防災体験などできて良かった」「非常に良い取り組みだった。来年度も続けると良い」等活動に対して積極的な感想を頂き、行政へも皆さんのこの思いを伝えました。

活動成果としては、「行政と共に活動する川づくり」の一步を踏み出した所ですが、来年度もみんなから愛される野洲川を目指して行政と住民の思いを繋ぐ河川レンジャー活動を進めていきます。

（水上幸夫）

河川レンジャー活動紹介・レンジャー名・“活動テーマ”・進行している活動



根木山レンジャー

“野洲川の川守りをつなぐ”

今年、野洲川は通水40周年を迎えます。これまで進めてきた野洲川中州親水公園（かわまちづくり）の住民利用の推進や、樹木伐採（公募）に参加する住民グループの支援から、より一歩踏み込んで、住民の野洲川での活動をつなぎ、支援していきたいと準備を進めています。



北村レンジャー

“川と共存してきた「地域の記憶掘り起こし」”

川と地域の関わりを残していくために、昔の風景写真の情報を集めたり、ヒアリングをしています。外畑、天ヶ瀬地区での活動の成果は冊子にまとめてあります。川にまつわる写真や思い出の情報を、是非お寄せくださいね！



近藤レンジャー

“瀬田川をプラットフォームとした交流づくり”

私を含め、多くの大学が活動拠点としている瀬田川で大学間だけでなく、地域住民の方々なども含めた交流の場をつくり、共同作業ができる環境づくりに励みます。よろしくお願ひします。

活動拠点（問い合わせ先）

水のみぐみ館ウォーターステーション琵琶内 河川レンジャー活動支援室
〒520-2279 滋賀県大津市黒津4-2-2 TEL077-536-3520 FAX077-536-3530
E-mail : r-manager@water-station.jp URL : http://www.water-station.jp/ranger
FB : http://www.facebook.com/BiwakoRanger

フェイスブックで活動を広報しています！

琵琶湖河川レンジャーFacebookページ
https://www.facebook.com/BiwakoRanger/

平成 30 年度の年間スケジュール

平成 30 年度の琵琶湖河川レンジャーの年間スケジュールは以下の通りです。

時期	制度運営委員会等	河川レンジャーミーティングおよび勉強会(仮称)	その他 (Rレポート発行、流域連携支援室関係 他)
4月			
5月		5/18 第1回 河川レンジャーミーティング	
6月	6/7 意見交換会 6/7 第54回 制度運営委員会		
7月			流域連携イベント 7/21・22「第11回 水辺の匠」
8月			
9月			琵琶湖河川レンジャーレポート VOL.35 発行
10月	10/22 第1回 琵琶湖河川R・琵琶湖河川事務所 意見交換会		
11月		11/22 河川レンジャー勉強会 「第1回 水防災研修」(座学)	
12月	12/27 第55回 制度運営委員会		流域連携イベント 12/2「第7回 水辺の匠クリスマス」
1月			琵琶湖河川レンジャーレポート VOL.36 発行
2月	2/15 第2回 琵琶湖河川R・琵琶湖河川事務所 意見交換会		流域連携イベント 2/3「淡海の川づくりフォーラム」参加 (根木山R、北村R)
3月	3/15 第56回 制度運営委員会		琵琶湖河川レンジャーレポート VOL.37 発行

平成
30
年度